

ScandAll PRO について説明しています。

ScandAll PRO
について

ScandAll PRO を使用して原稿を読み取る
方法について説明しています。

ScandAll PRO
の使い方

ScandAll PRO の使い方

本書の使い方

本書の使い方について説明します。
表紙ページ

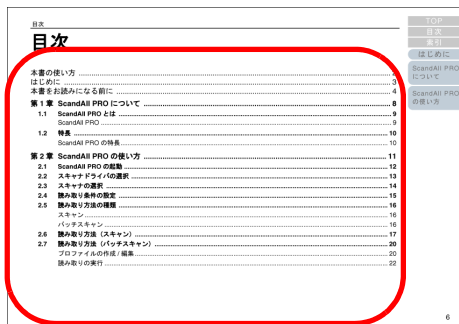


各章の
先頭ページに
移動します。

本書の使い方
ページに
移動します。

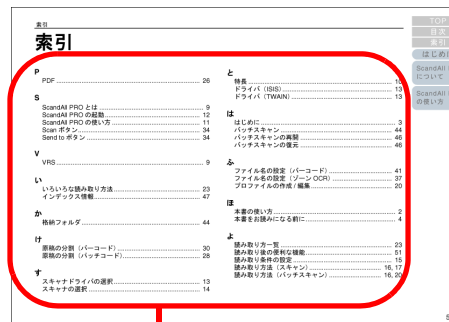
TOP : 表紙ページに移動します。
目次 : 目次ページに移動します。
索引 : 索引ページに移動します。

目次ページ




クリックしたタイトルのページに移動します。

索引ページ



クリックした索引のページに移動します。

共通

- 本書を表示/印刷するには、アドビ システムズ社の Adobe® Acrobat® 7.0 以降、または Adobe® Reader® 7.0 以降が必要です。
- 本文中の青字（マウスがリンク選択時の形状（ など）に変わる箇所）をクリックすると、参照先に移動します。
- 本文中の検索は、Adobe® Acrobat® または Adobe® Reader® の検索機能が使えます。
詳細は、Adobe® Acrobat® または Adobe® Reader® のヘルプを参照してください。
- キーボードを使う場合は、「PageUp」キーで前ページ、「PageDown」キーで次ページに移動します。

はじめに

このたびは、「ScandAll PRO」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

本製品について

ScandAll PRO は、イメージスキャナ fi シリーズで読み取った画像を一覧表示したり、編集したりするためのアプリケーションです。

本書では、ScandAll PRO を使用して、イメージスキャナ fi シリーズで読み取りを行う方法について説明しています。

ScandAll PRO の詳細機能については、「ScandAll PRO ヘルプ」を参照してください。

商標および登録商標について

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、および SharePoint は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

ISIS は、EMC Corporation の米国における登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、および Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Kofax および VRS は、Kofax Image Products, Inc. の登録商標または商標です。

その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

開発・販売元

株式会社 PFU

〒 212-8563

神奈川県川崎市幸区堀川町 580 番地

(ソリッドスクエア東館)

TEL:044-540-4538

All Rights Reserved, Copyright © PFU LIMITED 2007-2010

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する損害につきましては、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても当社は一切その責任を負いません。

本書をお読みになる前に

本書で使用している記号について

本書では、警告表示とは別に、説明中に次の記号を使用しています。



特に注意が必要な事項が書かれています。必ずお読みください。



操作に関するワンポイントアドバイスが書かれています。

本書の表記について

本文中では製品名を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Windows® XP Home Edition (Service Pack 2 以降)、 Windows® XP Professional (Service Pack 2 以降)、 Windows® XP Professional x64 Edition	Windows XP	Windows (*1)
Windows Server® 2003 R2, Standard Edition、 Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition	Windows Server 2003	
Windows Vista® Home Basic (32/64bit)、 Windows Vista® Home Premium (32/64bit)、 Windows Vista® Business (32/64bit)、 Windows Vista® Enterprise (32/64bit)、 Windows Vista® Ultimate (32/64bit)	Windows Vista	
Windows Server® 2008 Standard (32/64bit) Windows Server® 2008 R2 Standard (64bit)	Windows Server 2008	
Windows® 7 Home Premium (32/64bit) Windows® 7 Professional (32/64bit) Windows® 7 Enterprise (32/64bit) Windows® 7 Ultimate (32/64bit)	Windows 7	Windows (*1)

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Office SharePoint® Portal Server 2003	Microsoft SharePoint Server
Microsoft® Office SharePoint® Server 2007	
Adobe® Acrobat®	Adobe Acrobat

*1: すべてのオペレーティングシステムを区別しないで使用する場合は、Windows と表記しています。

連続する操作の表記について

本文中の操作手順で、連続する操作手順を「→」でつなげて記述しています。

例: 「スキャン」メニュー → 「スキャナの設定」をクリックします。

本書に記載されている画面について

画面は、改善のため予告なく変更することがあります。表示された画面が、本書に記載されている画面と異なる場合は、対象ソフトウェアのマニュアルを参考にして、実際の画面に従って操作してください。

なお、本書に記載している画面は、TWAIN ドライバ、ISIS ドライバ、画像キャプチャリングアプリケーション ScandAll PRO、および Adobe Acrobat のものです。

本書では、Windows Vista の画面を例に説明しています。お使いのオペレーティングシステムによって表示される画面および操作が異なります。また、スキャナによっては、TWAIN ドライバ、ISIS ドライバをアップデートすると、本書で記載している画面および操作が異なることがあります。その場合は、アップデート時に提供されるマニュアルを参照してください。

本書に記載されているスキャナの各部名称について

本書で記載されているスキャナのボタン、およびオペレーターパネル部のディスプレイは、お使いのスキャナによっては名称が異なります。

本書に記載されている名称が実際の名称と異なる場合は、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。

目次

本書の使い方	2
はじめに	3
本書をお読みになる前に	4
第 1 章 ScandAll PRO について	8
1.1 ScandAll PRO とは	9
ScandAll PRO	9
1.2 特長	10
ScandAll PRO の特長.....	10
第 2 章 ScandAll PRO の使い方	11
2.1 ScandAll PRO の起動	12
2.2 スキャナドライバの選択	13
2.3 スキャナの選択	14
2.4 読み取り条件の設定	15
2.5 読み取り方法の種類	16
スキャン	16
バッチスキャン	16
2.6 読み取り方法（スキャン）	17
2.7 読み取り方法（バッチスキャン）	20
プロファイルの作成 / 編集	20
読み取りの実行	22
2.8 いろいろな読み取り方法	23
読み取り方一覧	23
ADF 両面（仮想）読み取り機能を使用して原稿を読み取りたいとき（fi-6750S）.....	24
読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき	26

パッチコードを使って原稿を分割したいとき	28
バーコードを使って原稿を分割したいとき	30
スキャナのボタンで読み取りを開始したいとき	34
ゾーン OCR を使って結果をファイル名に設定したいとき	37
バーコードを使って結果をファイル名に設定したいとき	41
バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき	44
バッチスキャンを実行して Microsoft SharePoint Server に格納したいとき	46
中断したバッチスキャンを再開したいとき	47
インデックス情報を出力しアプリケーションと連携したいとき	48
読み取った原稿の異常を検出したいとき (fi-6800)	50
2.9 読み取り後の便利な機能	52
サムネイル画面にマークを付加する	52
読み取った画像を Microsoft SharePoint Server に格納する	53
索引	54

第1章 ScandAll PRO について

この章では、概要および特長について説明します。

1.1 ScandAll PRO とは.....	9
1.2 特長	10

1.1 ScandAll PRO とは

ScandAll PRO

ScandAll PRO は、TWAIN/ISIS 両規格に対応した、画像読み取り用アプリケーションです。

TWAIN ドライバ/ISIS ドライバ、または VRS (*1) の ISIS インターフェースを使って、スキャナから原稿を読み取り、画像にできます。

帳票や申請書類の電子化など、定型業務に適しています。

*1: 簡単な操作で高品質な画像を生成するアプリケーションです。原稿読み取り時に発生する原稿の傾き、色または網がけによる文字のつぶれなどをチェックし、自動的に補正します。



- ScandAll PROの機能詳細については、ScandAll PROのヘルプを参照してください。
- お使いのスキャナがVRSに対応していない場合は、VRSをご利用になれません。

1.2 特長

ScandAll PRO の特長

ScandAll PRO の主な特長を次に示します。

■ 多彩なスキャン設定

- TWAIN/ISIS 両規格に対応しています。
- バッチ処理（バッチスキャン）によって、スキャナの読み取り条件、ファイル形式、および保存先などを指定した読み取りができます。設定した内容は、プロファイルとして保存できます。
- ホットキーにより、キーボードからワンタッチでバッチスキャンを実行できます。
- イベントを設定することで、[Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンからワンタッチでバッチスキャンを実行できます。

■ 用途に合わせた表示 / 編集 / 保存

- 複数のファイルを並べて表示し、比較しながら閲覧できます。
- 読み取ったあとの画像に対して、回転 / 反転 / 傾き補正 / 並べ替え / ページ挿入・削除などの様々な編集ができます。編集したデータは、新規に名前を付けて保存する、または読み取り時に使用したプロファイルの設定で保存し直せます。
- 一度の読み取りで、カラー / 2 値白黒画像を同時出力できます（マルチイメージ出力機能に対応しているスキャナ使用時）。
- ビットマップ、JPEG、および TIFF ファイルの入力 / 出力ができます。
- 読み取った画像を PDF ファイルまたは PDF/A ファイルとして直接出力できます。また、検索可能な PDF ファイルや高圧縮 PDF ファイルも出力できます。

■ 便利な機能

- FTP サーバや Microsoft SharePoint Server と連携すれば、読み取った画像を指定したサーバに自動的に格納できます。
- メールソフトと連携すれば、読み取った画像をメールに添付して送信できます。

- パッチコードやバーコードを使用すれば、指定した原稿単位でページが分割され、異なるファイルに保存できます。
- 読み取ったバーコードデータや画像の一部をゾーン OCR で文字認識し、そのデータをインデックス情報ファイルに出力できます。
- 出力した画像ファイルやインデックス情報ファイルをパラメーターとして、指定したアプリケーションプログラムを呼び出せます。
- 読み取った画像に異常がある場合、サムネイル画面の背景色を変更することでユーザーに通知します。（fi-6800 限定）
- 読み取った画像のサムネイル画面にマークを付加することで、読み取った画像を簡単に選別できます。

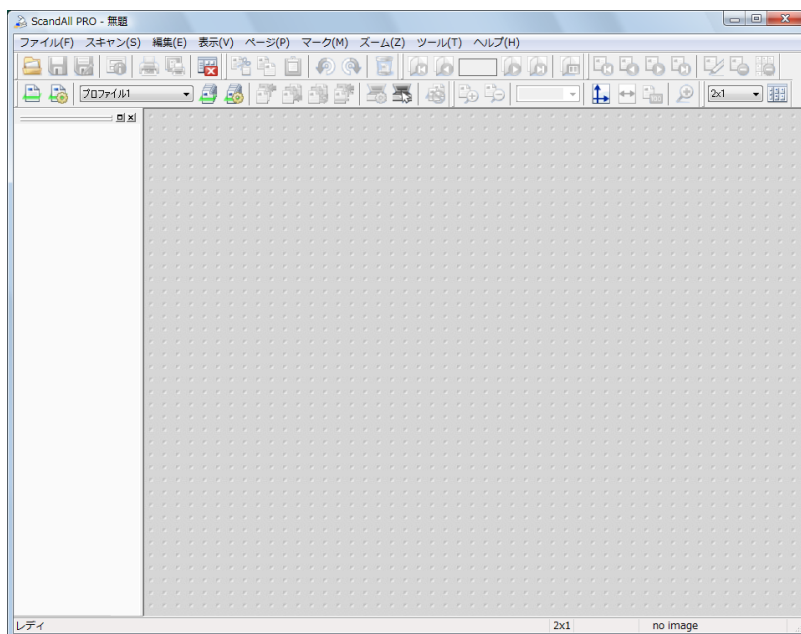
第2章 ScandAll PRO の使い方

この章では、ScandAll PRO を使用してスキャナから原稿を読み取る方法について説明します。

2.1 ScandAll PRO の起動	12
2.2 スキャナドライバの選択	13
2.3 スキャナの選択	14
2.4 読み取り条件の設定	15
2.5 読み取り方法の種類	16
2.6 読み取り方法（スキャン）	17
2.7 読み取り方法（バッチスキャン）	20
2.8 いろいろな読み取り方法	23
2.9 読み取り後の便利な機能	52

2.1 ScandAll PRO の起動

- 1 「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 → 「Fujitsu ScandAll PRO」 → 「ScandAll PRO」の順に選択します。
⇒ ScandAll PRO が起動されます。



2.2 スキャナドライバの選択

イメージスキャナ fi シリーズには、TWAIN 規格に準拠した TWAIN ドライバと ISIS 規格に準拠した ISIS ドライバの 2 種類のスキャナドライバが添付されています。

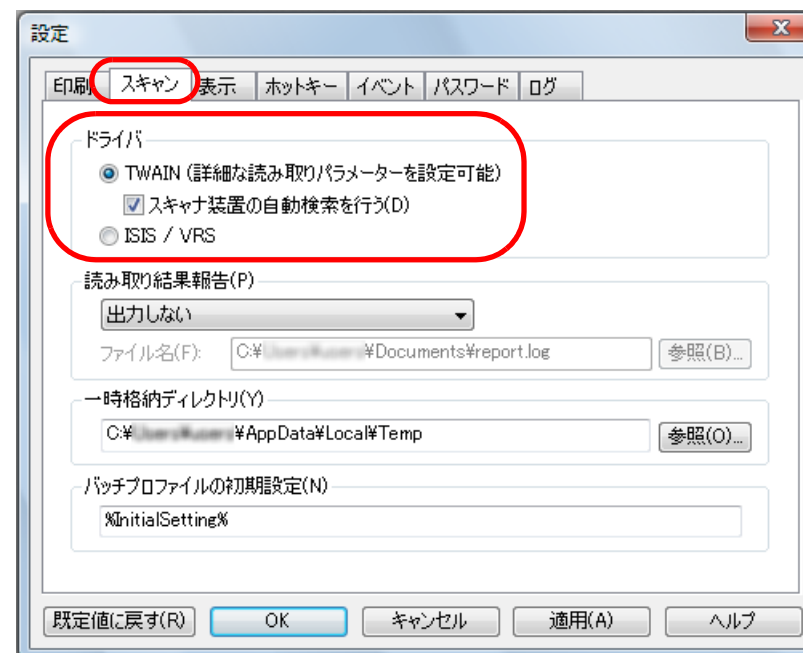
ScandAll PRO は、どちらのスキャナドライバにも対応しており、特に大きな機能差はないため、どちらか使いやすい方を選択し、ご使用ください。

次に、ScandAll PRO で使用するスキャナドライバの選択方法（TWAIN/ISIS の切り替え方法）について説明します。



- ScandAll PRO の初期設定では、「TWAIN」が選択されています。
- TWAIN ドライバの機能の詳細については、TWAIN ドライバのヘルプを参照してください。
- ISIS ドライバの機能の詳細については、ISIS ドライバのヘルプを参照してください。

- 1 「ツール」メニュー → 「設定」をクリックします。
⇒ 「設定」画面が表示されます。
- 2 「スキャン」タブの「ドライバ」で、使用するドライバをクリックします。



- 3 [OK] ボタンをクリックして、設定を保存します。

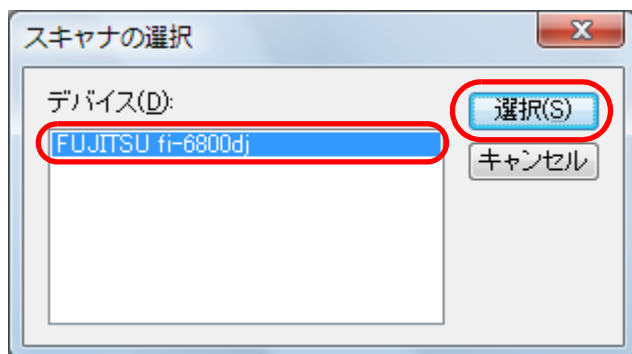
2.3 スキャナの選択

スキャナで原稿を読み取る前に、使用するスキャナを選択する必要があります。

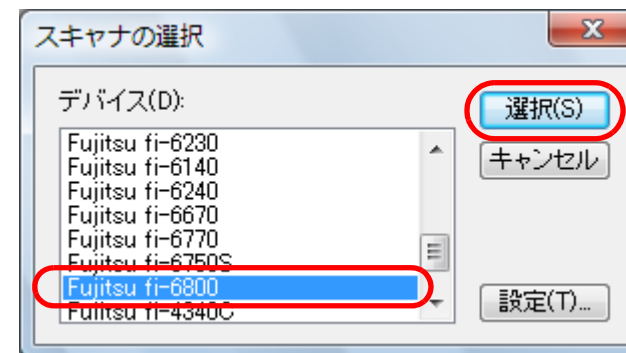
次に、その方法について説明します。

- 1 「スキャン」メニュー → 「スキャナの選択」をクリックします。
⇒ 「スキャナの選択」画面が表示されます。
- 2 使用するスキャナ名を選択し、[選択] ボタンをクリックします。
コンピュータに接続したスキャナを選択します。表示されるスキャナ名は、使用するスキャナドライバによって異なります。

TWAIN ドライバの場合



ISIS ドライバの場合



2.4 読み取り条件の設定

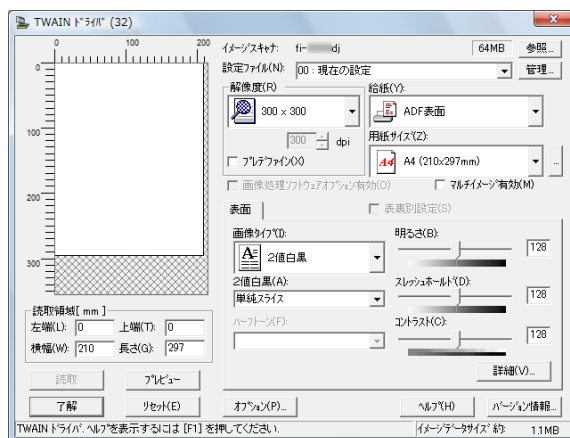
スキャナの読み取りに関する条件は、スキャナドライバの設定画面で設定します。



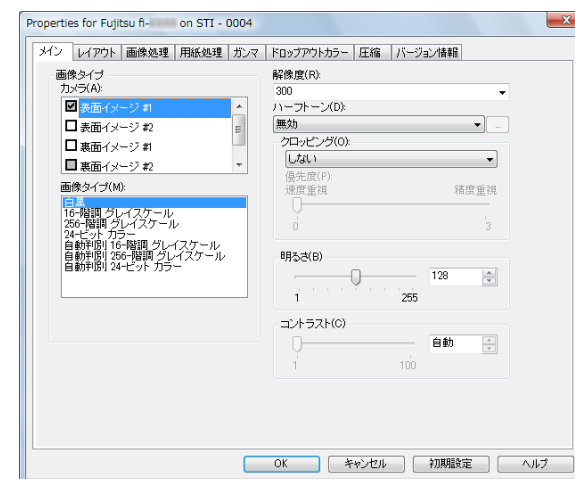
スキャナドライバの設定画面の仕様は、スキャナによって異なります。
詳細は、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。

- 1 「スキャン」メニュー → 「スキャナの設定」をクリックします。
⇒ スキャナドライバの設定画面が表示されます。

TWAIN ドライバの場合



ISIS ドライバの場合



設定できる項目については、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。

- 2 読み取り条件の設定が終わったら、TWAIN ドライバの場合は、[了解] ボタンをクリックします。ISIS ドライバの場合は、[OK] ボタンをクリックします。
⇒ 読み取り条件が設定されます。

2.5 読み取り方法の種類

ScandAll PRO を使用してスキャナから原稿を読み取るには、2つの方法があります。

スキャン

少量の原稿を読み取る場合に使用します。

必要に応じて、ファイルの保存形式、保存先、および読み取り条件などを設定して読み取ります。

詳細については、「[2.6 読み取り方法（スキャン）](#)」（P.17）を参照してください。

バッチスキャン

大量の原稿を処理するような場合に使用します。

事前に条件設定を「プロファイル」として登録すると、プロファイルの設定内容に従って読み取りできます。

プロファイルは、ファイルの保存形式、保存先、読み取り条件、および画像処理や連携させるアプリケーションなどを設定して作成します。

また、プロファイルは複数登録できるので、作業内容に応じて複数のプロファイルを準備しておけば、切り替えて読み取りできます。

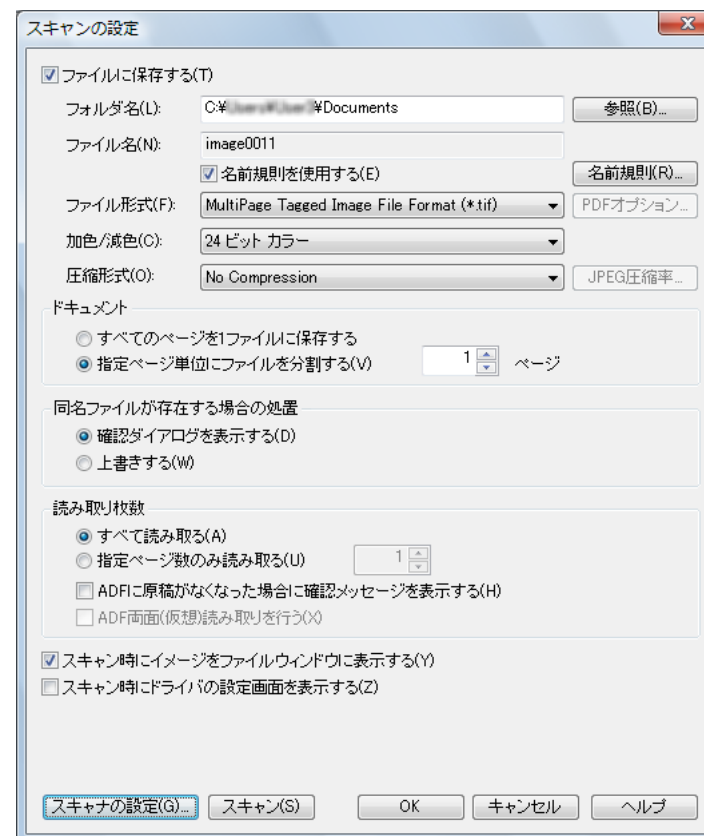
詳細については、「[2.7 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.20）を参照してください。

2.6 読み取り方法（スキャン）

スキャンでは、必要に応じて読み取りや保存に関する条件などを設定して読み取ります。

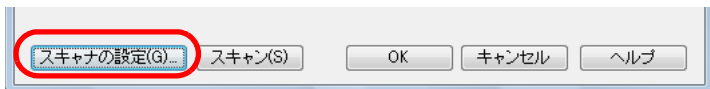
- 1 スキャナに原稿をセットします。
原稿をセットする方法については、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 「スキャン」メニュー → 「スキャンの設定」をクリックします。
⇒ 「スキャンの設定」画面が表示されます。

- 3 「スキャンの設定」画面で、読み取った画像の保存方法などを設定します。



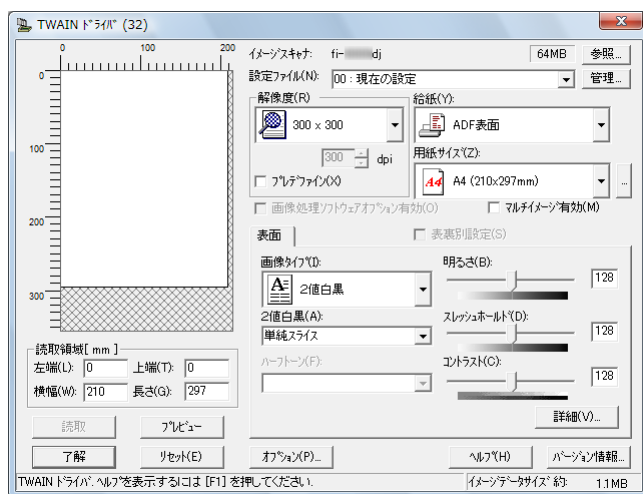
各設定項目の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

4 [スキャナの設定] ボタンをクリックします。

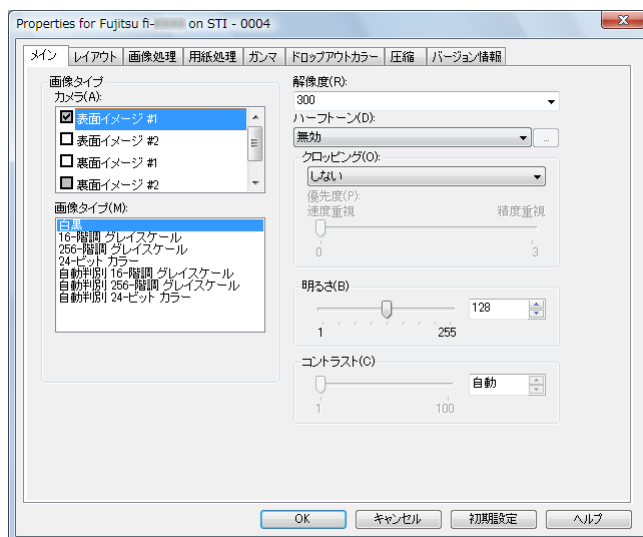


⇒ スキャナドライバの設定画面が表示されます。

TWAIN ドライバの場合



ISIS ドライバの場合



5 読み取り条件を設定します。

設定項目については、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。

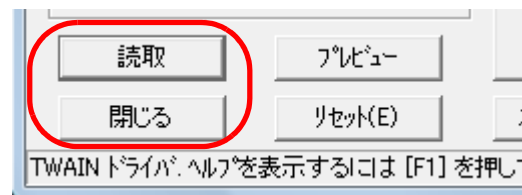
6 読み取り条件の設定が終わったら、TWAIN ドライバの場合は、[了解] ボタンをクリックします。ISIS ドライバの場合は、[OK] ボタンをクリックします。

⇒ 「スキャンの設定」画面に戻ります。

7 [スキャン] ボタンをクリックします。

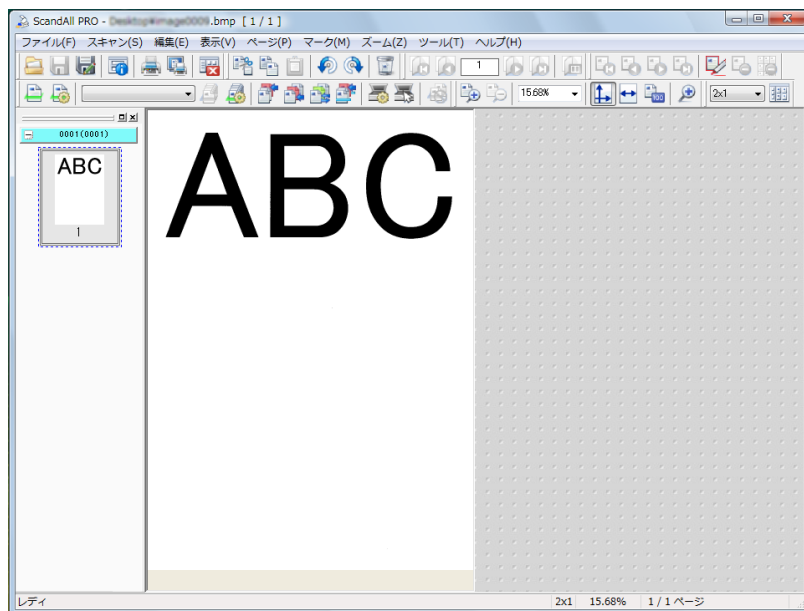


TWAIN ドライバの場合、[スキャン] ボタンをクリックすると、スキャナドライバの設定画面が表示される場合があります。この場合、ここで読み取り条件の設定を変更することもできます。読み取りを実行するには、[読取] ボタンをクリックします。読み取りが完了したら、[閉じる] ボタンをクリックします。



なお、ここでスキャナドライバの設定画面を表示させたくない場合は、「スキャン時にドライバの設定画面を表示する」チェックボックスのチェックを外してください。

⇒ スキャナで読み取った原稿の画像が ScandAll PRO の画面に表示され、ファイルに保存されます。



- 「スキャンの設定」画面で「ファイルに保存する」チェックボックスのチェックを外した場合は、ファイルには保存されません。ファイルに保存する場合は、「ファイル」メニュー→「名前を付けて保存」で保存処理を行ってください。
- 以後同じ条件で読み取る場合は、「スキャン」メニュー→「スキャン」をクリックします。
- ScandAll PRO の機能および操作については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

「スキャン」以外の読み取り操作については、「[2.8 いろいろな読み取り方法](#)」(P.23)を参照してください。

2.7 読み取り方法（バッチスキャン）

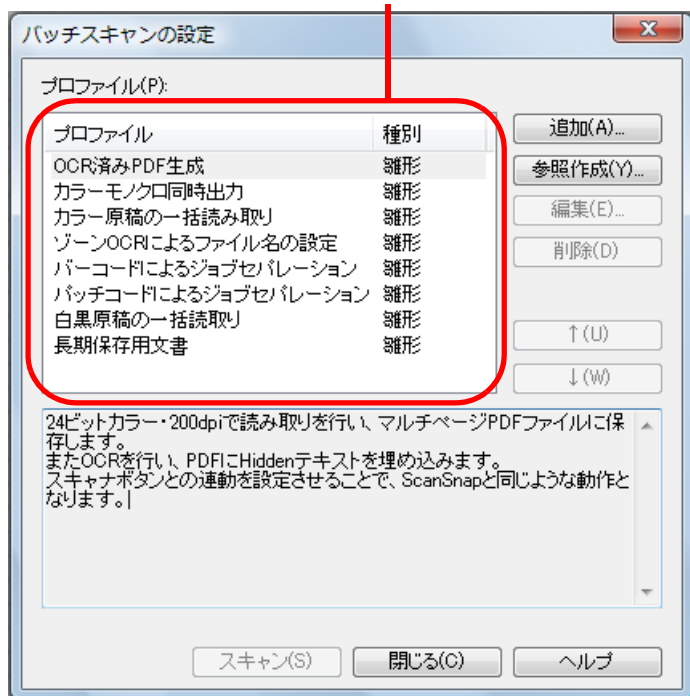
バッチスキャンでは、事前に読み取りや保存に関する条件をプロファイルとして登録しておき、そのプロファイルを使って読み取ります。

プロファイルの作成 / 編集

1 「スキャン」メニュー → 「バッチスキャンの設定」をクリックします。

⇒ 「バッチスキャンの設定」画面が表示されます。

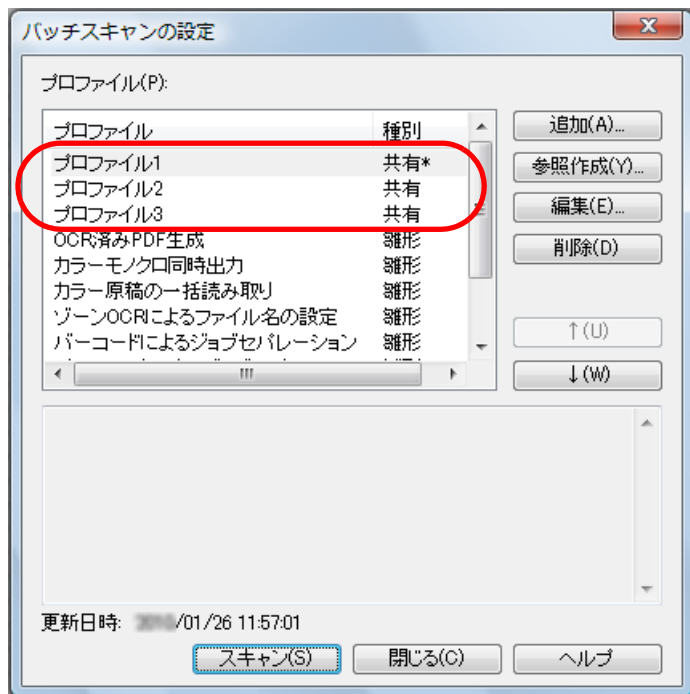
プロファイル一覧



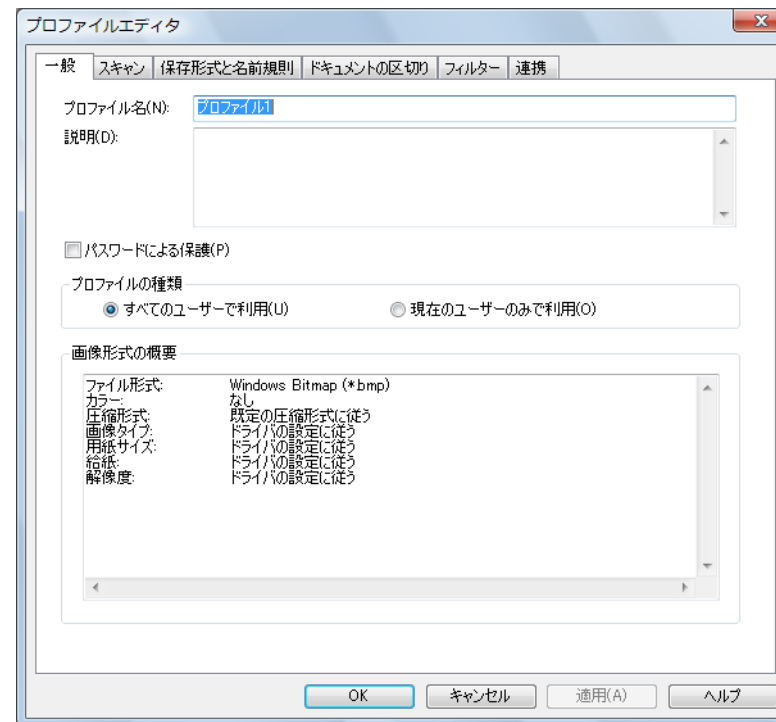
2 次の操作を行います。

- 新しくプロファイルを作成する場合
[追加] ボタンをクリックします。
⇒ プロファイルが「プロファイルエディタ」画面に表示されます。
- 既存のプロファイルを参照して新しくプロファイルを作成する場合
プロファイル一覧から参照するプロファイル名をクリックして、[参照作成] ボタンをクリックします。
⇒ クリックしたプロファイル名と同じ設定内容の新規プロファイルが「プロファイルエディタ」画面に表示されます。
- 既存のプロファイルを設定変更する場合
プロファイル一覧から参照するプロファイル名をクリックして、[編集] ボタンをクリックします。
⇒ クリックしたプロファイルが「プロファイルエディタ」画面に表示されます。
- 既存のプロファイルを一覧から削除する場合
プロファイル一覧から削除するプロファイル名をクリックして、[削除] ボタンをクリックします。
⇒ クリックしたプロファイルが削除されます。

プロファイルを設定すると、プロファイル一覧に追加されます。



3 「プロファイルエディタ」画面で、読み取り条件や、読み取ったファイルの保存方法などを設定します。



- プロファイル一覧の「種別」に「雛形」と表示されているプロファイルは、事前に用意されたサンプルプロファイルです。読み取りには使用できません。参照作成する場合の雛形として使用してください。
- プロファイル一覧の各項目のタイトル行をクリックすると「雛形」以外がソートされます。
- プロファイルの初期値を事前に設定できます。
 - 1 「ツール」メニュー→「設定」をクリックし、「スキャン」タブの「バッチプロファイルの初期設定」でプロファイル名を指定します。
 - 2 バッチスキャンの設定で、指定したプロファイル名と同じ名前のプロファイルを作成します。
 - 3 作成したプロファイルの種別の右側に*(アスタリスク)が表示されます。そのプロファイルの設定内容が初期値となります。「追加」ボタンでプロファイルを新規作成する場合、設定が反映されます。



! TWAIN ドライバを使用する場合、[スキャナの設定] で有効な「設定ファイル」は「00: 現在の設定」だけです。



各設定項目の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

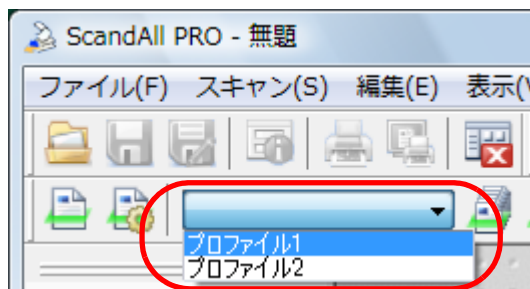
4 [OK] ボタンをクリックします。

⇒ 「バッチスキャン」画面に戻ります。

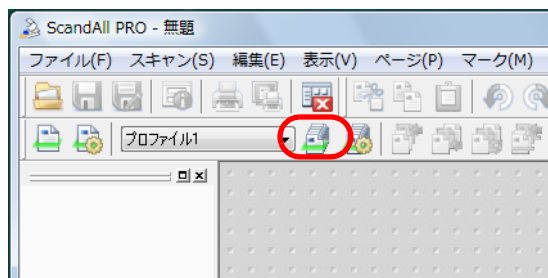
「追加」、「参照作成」で作成したプロファイルは、プロファイル一覧に表示されます。

読み取りの実行

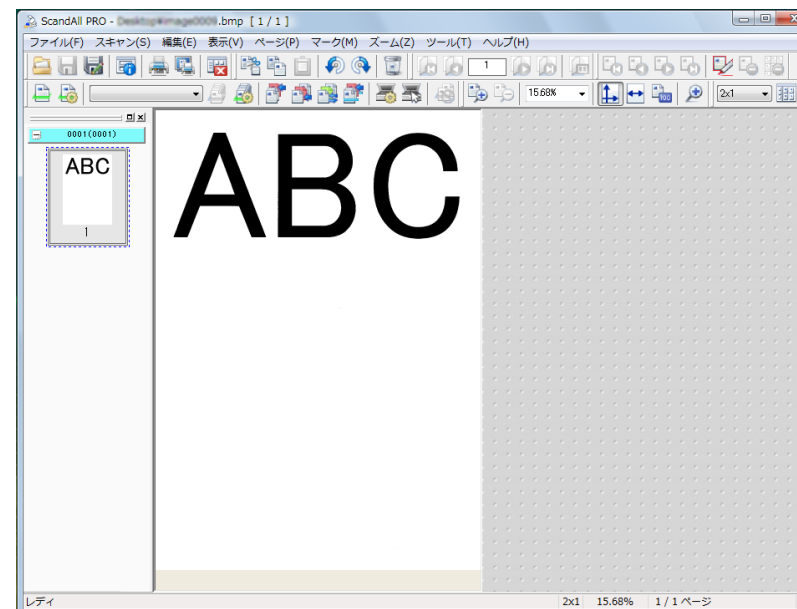
- 1 スキャナに原稿をセットします。
- 2 ツールバーの「バッチプロファイルの選択」で、使用するプロファイル名を選択します。



- 3 [バッチスキャンの実行] ボタンをクリックします。



⇒ スキャナで読み取った原稿の画像が ScandAll PRO の画面に表示され、ファイルに保存されます。



- 「スキャン」メニューや「バッチスキャンの設定」画面から読み取ることもできます。詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。
- バッチスキャンを行ったとき、バッチスキャンの作業状態が自動的に一時保存されます。一時保存は、プロファイルごとに行われ、常に直前で行われた作業状態で上書き保存されます。また、一時保存されたバッチスキャンの作業状態は、「スキャン」メニュー→「バッチスキャンの復元」で復元できます。「バッチスキャンの復元」については、「[中断したバッチスキャンを再開したいとき](#)」(P.47)を参照してください。
- バッチスキャン後に、追加スキャン、挿入スキャン、差し替えスキャン、ドキュメントへの追加スキャンや画像の編集を行った場合は、「ファイル」メニュー→「保存」で、変更した内容を保存しておけます。

2.8 いろいろな読み取り方法

ScandAll PRO から TWAIN ドライバを起動して、いろいろな方法で原稿を読み取りできます。
読み取り方の一覧を、次に示します。

読み取り方一覧

読み取り方の変更

- 「ADF 両面（仮想）読み取り機能を使用して原稿を読み取りたいとき（fi-6750S）」（P.24）

読み取り後の動作や処理の設定

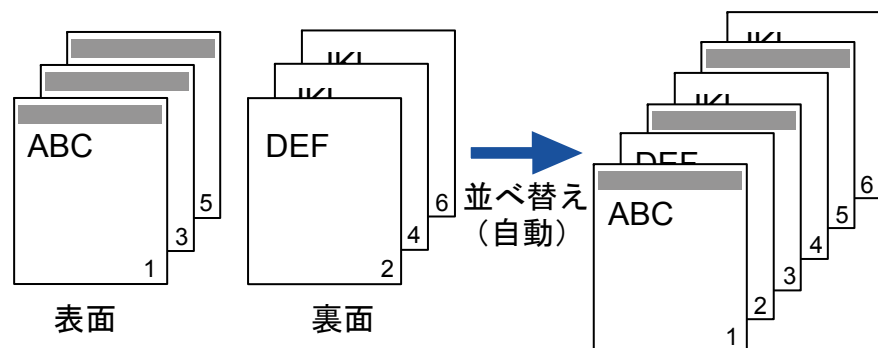
- 「読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき」（P.26）
- 「パッチコードを使って原稿を分割したいとき」（P.28）
- 「バーコードを使って原稿を分割したいとき」（P.30）
- 「ゾーン OCR を使って結果をファイル名に設定したいとき」（P.37）
- 「バーコードを使って結果をファイル名に設定したいとき」（P.41）
- 「バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき」（P.44）
- 「バッチスキャンを実行して Microsoft SharePoint Server に格納したいとき」（P.46）
- 「中断したバッチスキャンを再開したいとき」（P.47）
- 「インデックス情報を出力しアプリケーションと連携したいとき」（P.48）
- 「読み取った原稿の異常を検出したいとき（fi-6800）」（P.50）

読み取り時のスキャナ動作の変更

- 「スキャナのボタンで読み取りを開始したいとき」（P.34）

ADF 両面（仮想）読み取り機能を使用して原稿を読み取りたいとき（fi-6750S）

ADF 両面（仮想）読み取り機能は、原稿の表面を読み取り、続けて裏面を読み取ったあとに原稿を自動的に並べ替える機能です。

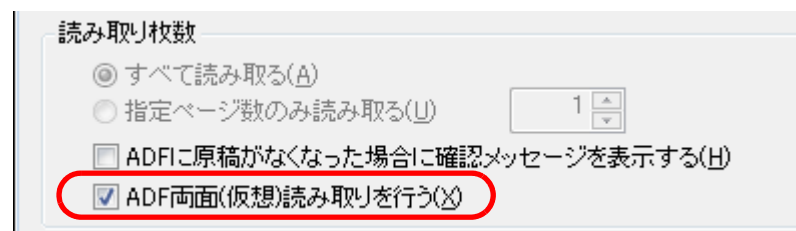


1 ADF給紙シュートに原稿の表面を下にしてセットします。原稿をADF給紙シュートにセットする方法については、お使いのスキナーのオペレーターガイドを参照してください。

2 ScandAll PRO で両面を読み取るように設定します。

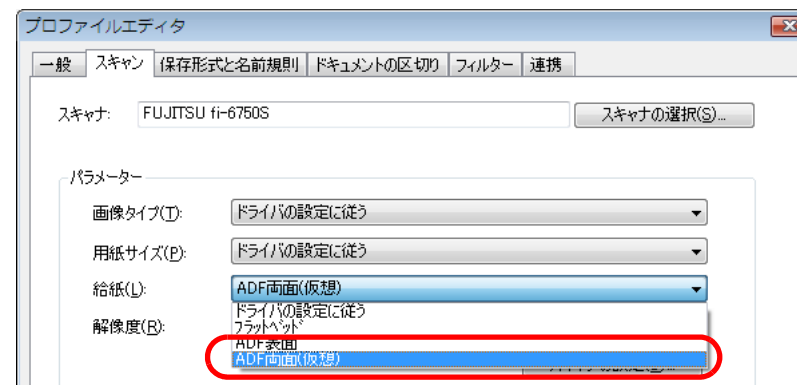
スキャンで読み取る場合

「スキャンの設定」画面の「ADF 両面（仮想）読み取りを行う」チェックボックスをチェックします。



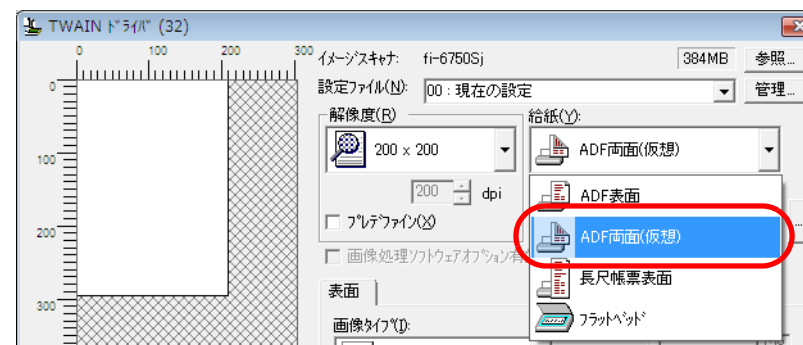
バッチスキャンで読み取る場合

読み取りに使用するプロファイルを「プロファイルエディタ」画面で表示して、「スキャン」タブの「給紙」から「ADF 両面（仮想）」を選択します。



スキナードライバで読み取る場合

「TWAIN ドライバ (32)」画面で「給紙」から「ADF 両面（仮想）」を選択します。



ISIS ドライバの画面では、仮想的に両面を読み取る設定ができません。ISIS ドライバを使用する場合は、「スキャンの設定」画面またはバッチスキャンを使用してください。

3 ScandAll PRO から、読み取りを実行します。
⇒ 読み取りが完了すると、原稿の裏面をセットするように指示するメッセージが表示されます。

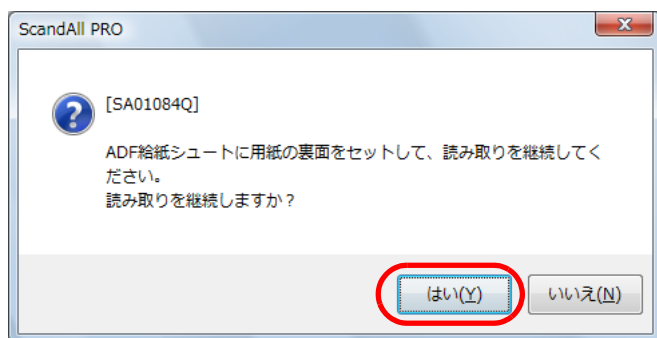
4 ADF給紙シュートに原稿の裏面を下にしてセットします。原稿を ADF 給紙シュートにセットする方法については、お使いのスキヤナのオペレーターガイドを参照してください。



原稿の裏面をセットする場合、次のことに注意してください。

- 最終ページから読み取りが行われるように原稿をセットしてください。
- 原稿の上下がさかさまにならないようにセットしてください。

5 メッセージの [はい] ボタンをクリックします。



⇒ 原稿の裏面が読み取られます。
読み取り完了後、原稿の順序が自動的に並べ替えられます。



- 次の場合、ADF 両面（仮想）読み取りを行うことができません。ScandAll PRO またはスキヤナドライバの設定を変更してください。
 - 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブで「カラーモノクロ同時出力」チェックボックスおよび「カラーモノクロ自動振り分け」チェックボックスがチェックされている場合
 - 「プロファイルエディタ」画面の「ドキュメント区切り」タブで「区切りごとのページ数」、「パッチコードを使用したジョブセパレータ」、「バーコードを使用したジョブセパレータ」または「ハードウェアのジョブセパレータ」のチェックボックスがチェックされている場合
 - TWAIN ドライバの「TWAIN ドライバ (32)」画面で「マルチイメージ有効」チェックボックスをチェックし、表示される「マルチイメージ設定」画面の「マルチイメージ出力」をクリックした場合
 - TWAIN ドライバの「オプション」画面で「上下分割」チェックボックスおよび「ブランクページスキップ」チェックボックスがチェックされている場合
 - ISIS ドライバの「ブランクページスキップ」タブの「有効」チェックボックスがチェックされている場合
 - ISIS ドライバの「画像処理」タブの「画像タイプ」の「カメラ」で「表面イメージ #1」および「表面イメージ #2」チェックボックスがチェックされている場合
- 表面と裏面の読み取り枚数が異なる場合、原稿の並べ替えは行われません。

読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき

ScandAll PRO では、特別な操作を必要とせず、簡単に PDF を作成できます。また、圧縮率を変更して PDF のデータサイズを小さくできます。原稿をカラーおよびグレースケールで読み取る場合にお勧めします。

次に手順を示します。

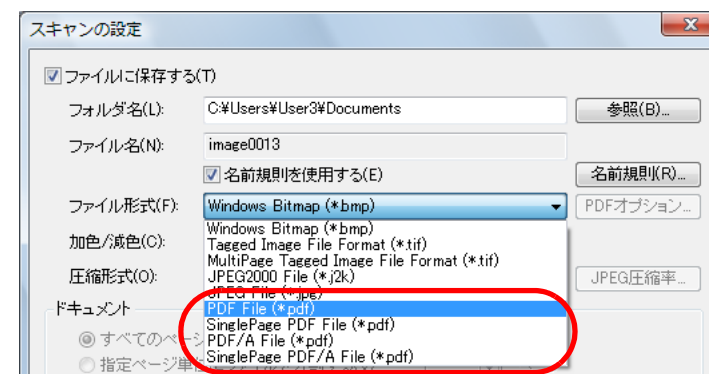
- 1 スキャナに原稿をセットします。
原稿をセットする方法については、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 ScandAll PRO で、読み取った画像を保存するファイルのファイル形式を、次から選択します。
 - PDF File
 - SinglePage PDF File
 - PDF/A File
 - SinglePage PDF/A File



「PDF File」、「SinglePage PDF File」は Adobe Acrobat 4.0 (PDF 1.3) 互換形式、「PDF/A File」、「SinglePage PDF/A File」は PDF/A-1b 形式 (PDF 1.4 仕様に基づいた電子文書の長期保存用形式) で保存されます。「SinglePage PDF File」、「SinglePage PDF/A File」は、1つの画像に対して1つのファイルが生成され、「PDF File」、「PDF/A File」は、複数の画像を1つのファイルに保存できます。

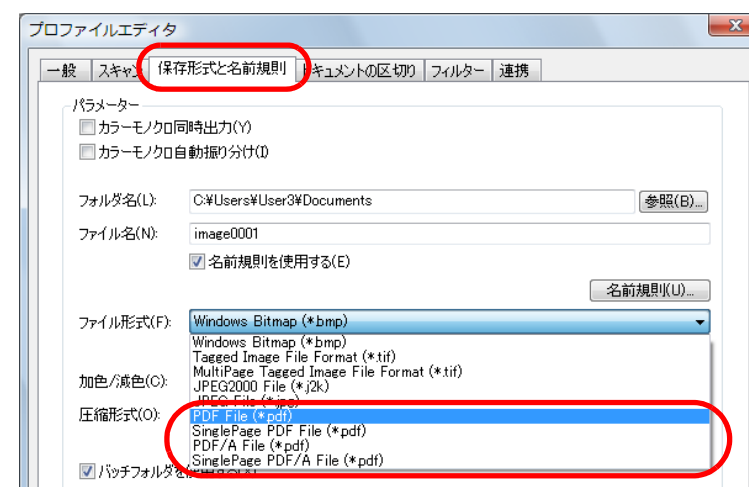
スキャンで読み取る場合

「スキャンの設定」画面の「ファイル形式」で選択します。



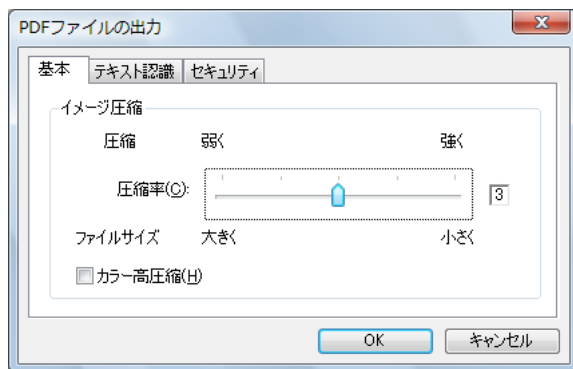
バッチスキャンで読み取る場合

読み取りに使用するプロファイルを「プロファイルエディタ」画面で表示して、「保存形式と名前規則」タブの「ファイル形式」で選択します。



3 PDF オプションを指定する場合は、[PDF オプション] ボタンをクリックします。

⇒「PDF ファイルの出力」画面が表示されます。



この画面で、ファイル作成時の圧縮率を変更したり、検索可能なPDFファイルに変換したり、PDFファイルを開く際のパスワードを設定したりできます。



「PDF ファイルの出力」画面の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

4 ScandAll PRO から、読み取りを実行します。



ScandAll PRO は、画像を PDF ファイルとして出力する機能は持っていますが、PDF ファイルを開く機能は正式にサポートしていません。強制的に開くことはできますが、正しく表示されなかったり、動作が不安定になったりする場合があります。
PDF ファイルを閲覧する場合は、Adobe Acrobat などの PDF ファイルを開くことができるアプリケーションを使用することをお勧めします。

パッチコードを使って原稿を分割したいとき

ScandAll PRO では、パッチコードシートによるジョブセパレーション機能をサポートしています。本機能を使用すれば、複数枚の原稿のスキャンを中断しなくても、事前に指定した単位でそれぞれ別のフォルダーに格納できます。出力ファイルがPDFやTIFF（マルチページ）の場合は、複数枚の原稿を読み取る際に、指定した原稿単位でページが分割され、別々のファイルに保存できます。

次に手順を示します。

- 1 パッチコードシートを準備します。
パッチコードシートは、A4サイズおよびレターサイズの2種類のPDFファイルが用意されています。パッチコードシートによるジョブセパレーション機能を使用する場合、事前に「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ScandAll PRO」→「Patch Code」→「Job Separation (A4)」または「Job Separation (Letter)」のPDFファイルを必要枚数だけ印刷してください。

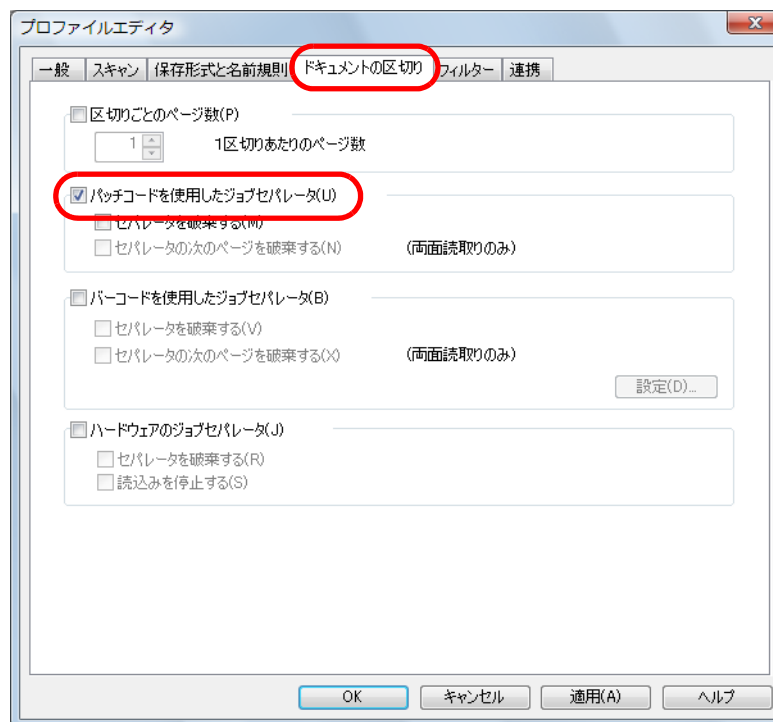


- パッチコードシートを印刷する場合、次のことに注意してください。
 - 白色無地の紙を使用してください。
 - 等倍で印刷してください。
縮小印刷された場合、正しく認識できません。
 - トナー節約などは行わないでください。
印字が薄い場合、正しく認識できません。
 - 薄い紙を使用しないでください。
裏写りしている場合、両面に印字されていると認識することがあります。
- 印刷したパッチコードシートを複写機などでコピーする場合は、元のパッチコードシートと同じサイズ、同じ濃さでコピーしてください。



- 同一のパッチコードシートを複数回使用すると、紙のよごれなどにより認識精度が低下する場合があります。正しく認識しない場合や、紙がよごれた場合は、新しいパッチコードシートを印刷して使用してください。

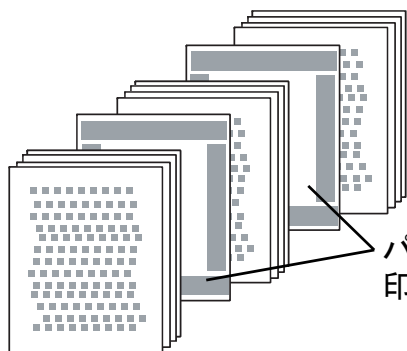
- 2 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。
プロファイルを作成する方法については、「2.7 読み取り方法（バッチスキャン）」（P.20）を参照してください。
- 3 「ドキュメントの区切り」タブをクリックし、「パッチコードを使用したジョブセパレータ」チェックボックスをチェックします。





- パッチコードシートの画像を読み取りたくない場合は、「セパレータを破棄する」チェックボックスをチェックしてください。
- 両面読み取りの場合、「セパレータの次のページを破棄する」チェックボックスをチェックすると、パッチコードシートの裏面は読み取られません。

4 ファイル/フォルダーを区切りたい位置にパッチコードシートを入れます。
パッチコードが印刷されている面を ADF 給紙シュート側になるように、セットします。



パッチコードが印刷されたシート

5 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
バッチスキャンを実行する方法については、「2.7 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.20) を参照してください。

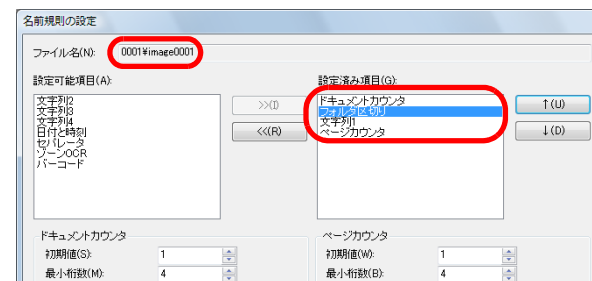


読み取った原稿をパッチコードシートごとに別のフォルダーに格納する手順を示します。

- 1 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則を使用する」チェックボックスをチェックして、[名前規則] ボタンをクリックします。
⇒ 「名前規則の設定」画面が表示されます。



2 「ドキュメントカウンタ」、「フォルダ区切り」、「文字列 1」、「ページカウンタ」を「設定済み項目」に設定します。

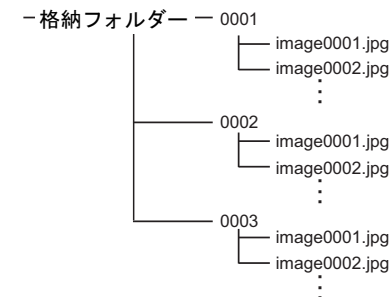


⇒ 「フォルダ区切り」より上に位置づけられた「ドキュメントカウンタ」がフォルダー名となり、そのフォルダーに読み取った画像が格納されます。

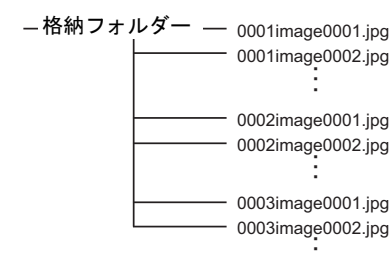
「フォルダ区切り」を設定しない場合は、フォルダーは作成されず、「ドキュメントカウンタ」、「文字列 1」、「ページカウンタ」がファイル名となります。

格納例：

「ドキュメントカウンタ」をフォルダーに指定した場合



「ドキュメントカウンタ」をフォルダーに指定しない場合



バーコードを使って原稿を分割したいとき

ScandAll PRO では、バーコードが印刷されているシートによるジョブセパレーション機能をサポートしています。本機能を使用すれば、複数枚の原稿のスキャンを中断しなくても、事前に指定した単位でそれぞれ別のフォルダーに格納できます。出力ファイルが PDF や TIFF (マルチページ) の場合は、複数枚の原稿を読み取る際に、指定した原稿単位でページが分割され、別々のファイルに保存できます。また、ドキュメントカウンタやバーコードの認識文字列を名前の一部に使用したファイルやフォルダーを作成できます。

ScandAll PRO では次の種類のバーコードを検知できます。

コード	キャラクタセット	桁数
UPC/EAN/ JAN	数字	UPC:12 (UPC-A だけ、チェックデジットを含む) EAN、JAN:8、または 13 (チェックデジットを含む)
CODE39	数字、アルファベット、7 種類の記号	1 ~ 32 (スタート・ストップコードを含まない)
CODE128	フルアスキー	1 ~ 32 (チェックキャラクタを含まない)
Codabar (NW7)	4 種類のスタート・ストップキャラクタ、数字、10 種類のアルファベットと記号	1 ~ 32 (スタート・ストップコードを含まない)

次にバーコードの検知条件を示します。

項目	条件
バーコードの高さ	10mm 以上 30mm 以下
バーコードの長さ	300mm 以下
バーコードの余白	バーコードの周囲 5mm 以上
バーコードの下地色	白色 (原稿によっては正しく認識しない場合があります)
バーコードの色	黒色
解像度	200dpi 以上 600dpi 以下
バーコードの角度	水平および垂直



- 読み取った原稿に予期しないバーコードがあった場合、誤ってドキュメントが分割されたり、読み取り時の指定によっては、読み取った画像が削除されたりする場合がありますため、事前に原稿をよく確認してください。検知するバーコードの種類や領域を限定することをお勧めします。
- 同じシートを複数回使用すると、紙のよごれなどにより認識精度が低下する場合があります。正しく認識しない場合や紙がよごれた場合は、新しいシートに交換してください。
- バーコードの認識文字列に制御文字およびフォルダー名やファイル名として使用不可能な文字 (¥/:?*?"<>|) が含まれていた場合は、これらの文字が「_」(アンダーバー) に置き換えられた名前でファイルやフォルダーが作成されます。
- 読み取り原稿が傾いている場合やドライバの設定、バーコードの印刷状態によっては正しく認識できない場合がありますので、事前に正しく認識されることを確認したあと、運用してください。

次に手順を示します。

- 1 バーコードのサンプル画像の原稿を読み取ります。
読み取り方法については、「2.6 読み取り方法 (スキャン)」(P.17) または「2.7 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.20) を参照してください。

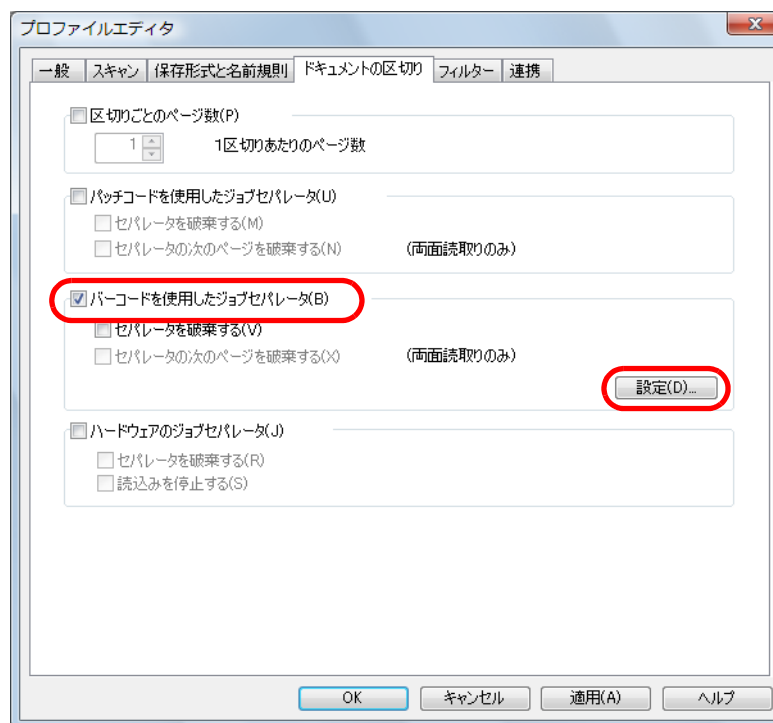


サンプルで使用できるのは、ScandAll PRO で作成した画像となります。
詳細は、次のとおりです。

解像度	カラー	原稿サイズ
200dpi 以上	白黒 / 8bit グレー / 24bit カラー	縦および横の長さ 50mm 以上 453mm 以下

- 2 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。
プロファイルを作成する方法については、「2.7 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.20) を参照してください。

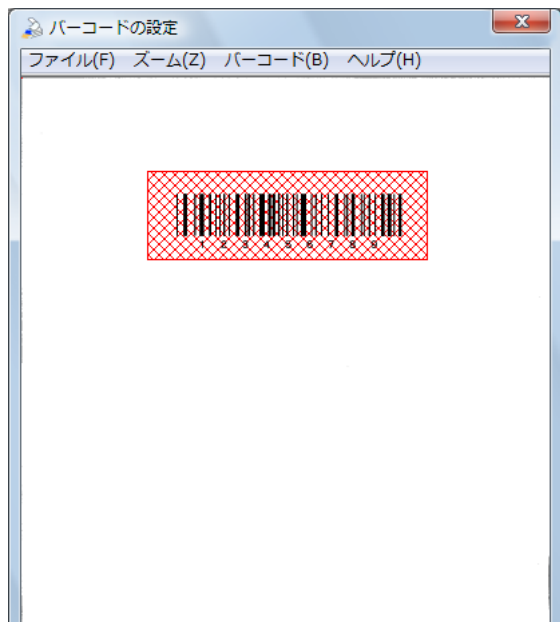
- 3 「ドキュメントの区切り」タブをクリックし、「バーコードを使用したジョブセパレータ」チェックボックスをチェックします。



- バーコードが印刷されたシートの画像を読み取りたくない場合は、「セパレータを破棄する」チェックボックスをチェックしてください。
- 両面読み取りの場合、「セパレータの次のページを破棄する」チェックボックスをチェックすると、バーコードが印刷されたシートの裏面は読み取られません。

4 [設定] ボタンをクリックします。
⇒ 「バーコードの設定」画面が表示されます。

5 バーコードを検出する領域をドラッグして選択します。
⇒ 選択した領域は赤色の網がけで表示されます。



6 領域選択が終了したら「ファイル」メニュー→「設定の終了」をクリックし、設定内容を保存して終了します。

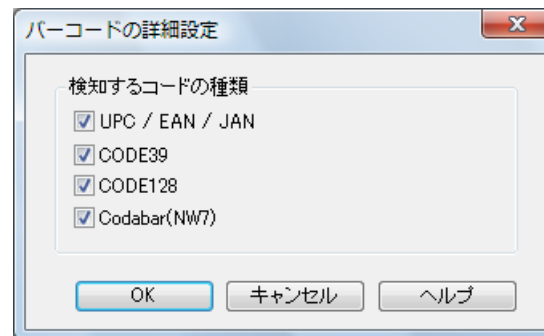


- サンプル画像の表示について
バーコードの設定画面では、次のサンプル画像が表示されます。
 - サンプル画像は、一度表示して保存されたものが表示されます。該当する画像がない場合は、メイン画面で最後に表示された画像が表示されます。メイン画面に画像が表示されていない場合は、「ファイル」メニューの「開く」でサンプル画像を選択してください。
 - 使用できるファイルは、ビットマップまたは、JPEG ファイル（Progressive JPEG を除く）です。



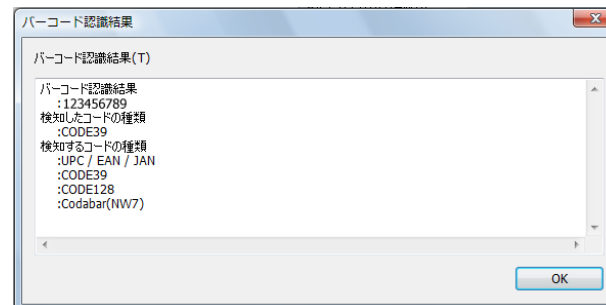
表示するサンプル画像を変更する場合は、「ファイル」メニュー→「開く」でサンプル画像を変更します。

- バーコードの種類について
「バーコード」メニュー→「詳細設定」で検知するバーコードの種類を指定できます。

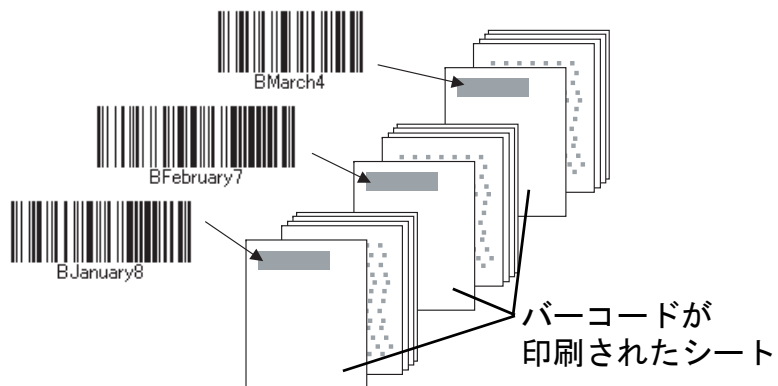


バーコードを使用し、読み取り性能が劣化した場合は、検知するバーコードの種類を少なくしたり、バーコードを検知する領域を小さくしたりすることによって、読み取り性能が改善する場合があります。認識領域に、複数のバーコードが存在した場合、最初に認識したバーコードが有効となります。

- バーコードの認識結果について
「バーコード」メニュー→「バーコード認識の実行」でサンプル画像のバーコードの認識結果を確認できます。



- 7 ファイル/フォルダーを区切りたい位置にバーコードが印刷されているシートを入れます。
バーコードが印刷されている面を ADF 給紙シート側になるように、セットします。

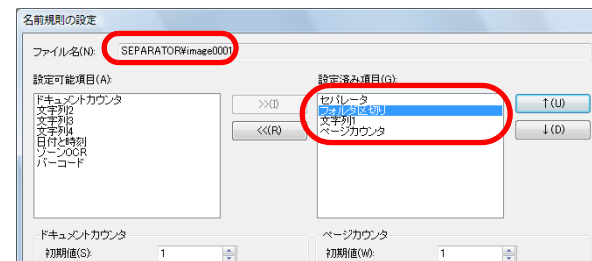


- 8 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
バッチスキャンを実行する方法については、「2.7 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.20) を参照してください。



読み取った原稿をバーコードが印刷されたシートごとに別のフォルダーに格納し、格納するフォルダー名をバーコード認識文字列とする手順を示します。

- 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則を使用する」チェックボックスをチェックして、[名前規則] ボタンをクリックします。
⇒「名前規則の設定」画面が表示されます。
- 「セパレータ」、「フォルダ区切り」、「文字列 1」、「ページカウンタ」を「設定済み項目」に設定します。

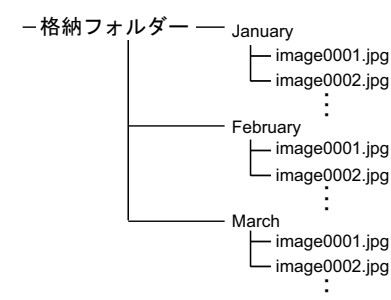


⇒「フォルダ区切り」より上に位置づけられた「セパレータ」がフォルダー名となり、そのフォルダーに読み取った画像が格納されます。

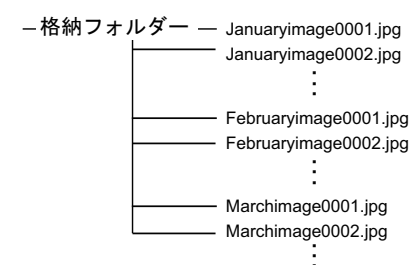
「フォルダ区切り」を設定しない場合は、フォルダーは作成されず、「セパレータ」、「文字列 1」、「ページカウンタ」がファイル名となります。

格納例：

「セパレータ」をフォルダーに指定した場合



「セパレータ」をフォルダーに指定しない場合



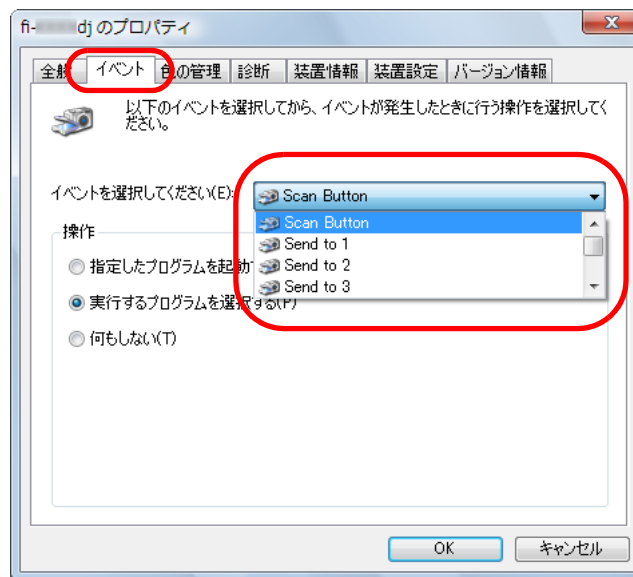
スキャナのボタンで読み取りを開始したいとき

スキャナの [Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンを使用して、原稿を読み取りできます。この場合は、起動するアプリケーションを各ボタンに設定する必要があります。

コンピュータ側の設定

- 1 スキャナとコンピュータが接続されていることを確認し、スキャナの電源を投入します。
スキャナとコンピュータの接続については、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 「スタート」メニュー → 「コントロールパネル」をクリックします。
⇒ 「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 3 「ハードウェアとサウンド」のアイコンをクリックします。
⇒ 「ハードウェアとサウンド」画面が表示されます。
- 4 「スキャナとカメラ」のアイコンをクリックします。
⇒ 「スキャナとカメラ」画面が表示されます。
- 5 スキャナのプロパティを表示します。
スキャナのアイコンをダブルクリックします。

- 6 「イベント」タブをクリックし、イベントを選択します。「イベントを選択してください」のメニューから、アプリケーションを起動するイベントを選択します。



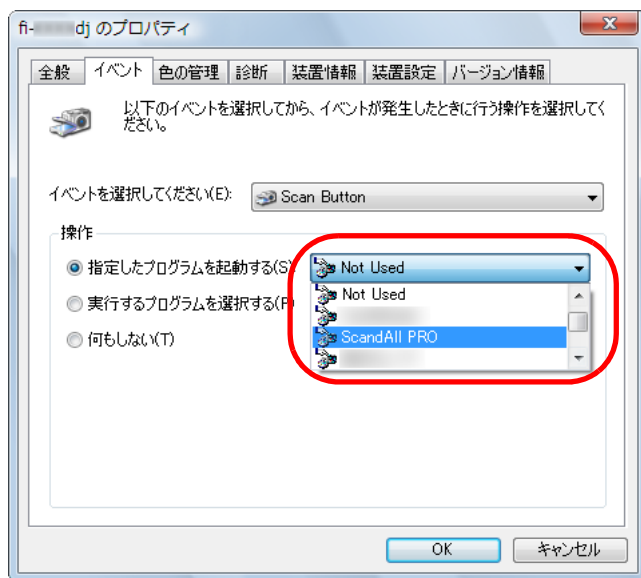
本機能では、次のイベントを選択できます。

- Scan Button ([Scan] ボタンを押したとき)
- Send to 1-n(オペレーターパネルに1～nの数字を表示させた状態で [Send to] ボタンを押したとき)



オペレーターパネルに表示される数字は、スキャナによって異なります。
例 :Send to 1-9

- 7** イベントで起動するアプリケーションと実行する処理を選択します。
「操作」の下の「指定したプログラムを起動する」をクリックして、右のメニューからアプリケーションを選択します。



- 8** [OK] ボタンをクリックします。
ScandAll PRO 以外のアプリケーションを使用する場合、コンピュータ側の設定はこれで終了です。続けて、「[スキャナ側の設定](#)」(P.36) を行ってください。



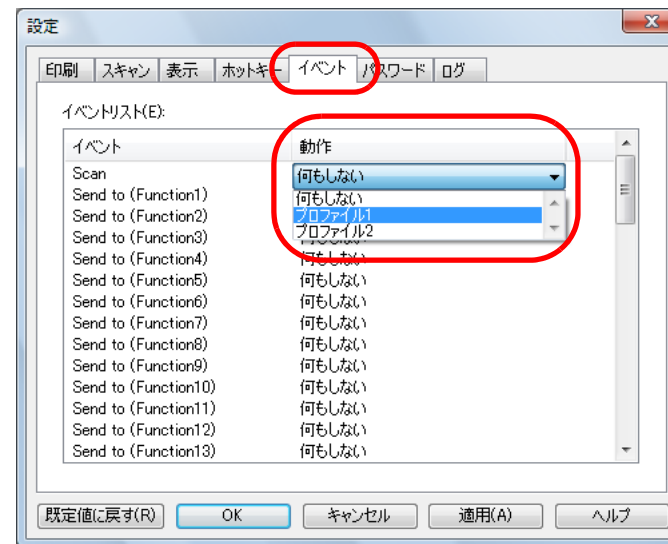
- お使いのオペレーティングシステムによって表示される画面および操作が異なります。
- 複数のボタンを設定する場合は、手順 6 ~ 7 を繰り返し、最後に手順 8 を行います。

- 9** ScandAll PRO を起動します。

- 10** 「ツール」メニュー → 「設定」をクリックします。
⇒ 「設定」画面が表示されます。

- 11** 「イベント」タブをクリックします。

- 12** 手順 6 で選択したイベントの動作欄をクリックして、表示されるリストから、読み取りに使用するプロファイルを選択します。



事前にプロファイルを作成しておく必要があります。
プロファイルの作成方法については、「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。

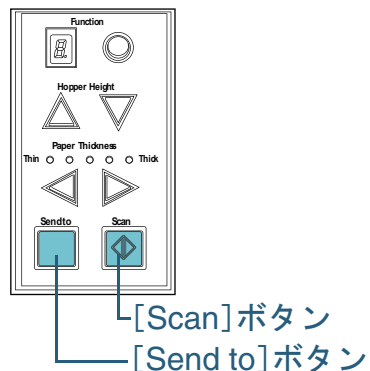
- 13** [OK] ボタンをクリックします。

- 14** ScandAll PRO を終了します。

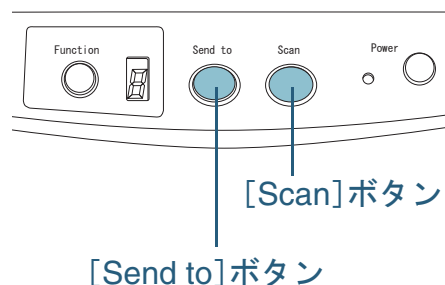
設定したボタンを押すと、ScandAll PRO が起動して、指定したプロファイルの条件に従って、バッチスキャンによる読み取りが実行されます。

スキャナ側の設定

ADF タイプ



フラットベッドタイプ



- [Scan] ボタンを使う場合
特に設定することはありません。
⇒ [Scan] ボタンを押すと、設定したアプリケーションが起動されます。
- [Send to] ボタンを使う場合
[Function] ボタンを押して、オペレーターパネルの数字を切り替えます。
コンピュータ側で設定したイベント (Send to 1 ~ n) と数字を合わせます。
例えば「Send to 2」のイベントを実行する場合は、オペレーターパネルに「2」を表示させます。
⇒ [Send to] ボタンを押すと、設定したアプリケーションが起動されます。



お使いのスキャナによっては、手順 12 で Send to 1 ~ n に設定したプロファイル名がオペレーターパネルに表示されます。ただし、プロファイル名が次の場合は正しく表示されません。

- スキャナがサポートしていない言語で設定している場合 (サポートしていない言語は「■」で表示されます)
- 表示域を超える場合 (半角で 16 文字 x3 行まで表示可能)



オペレーターパネルの仕様はスキャナによって異なります。詳細は、お使いのスキャナのオペレーターガイドを参照してください。

ゾーン OCR を使って結果をファイル名に設定したいとき

ScandAll PRO では、ゾーン OCR 機能をサポートしています。本機能を使用すれば、読み込んだ原稿の特定の領域で OCR が実行され、認識結果をファイルに出力できます。また、ゾーン OCR で認識した文字列を、ファイル名やフォルダ名に使用できます。ここでは、ゾーン OCR で認識した文字列をファイル名に設定する方法を説明します。



- 画像の解像度は、次を推奨します。カラー/グレイは 600dpi より大きい解像度は認識できません。
 - 白黒：400/600dpi
 - カラー/グレイ：200/300dpi
- ドライバによる自動傾き補正と原稿向き補正フィルターを使用することにより、認識率の向上が期待できます。
- 認識文字が英数字や記号だけの場合は、誤認識することがあります。認識言語を英語に変更して実行すると文字を認識しやすくなります。

次に手順を示します。

- 1 ゾーン OCR のサンプル画像の原稿を読み取ります。読み取り方法は「[2.6 読み取り方法 \(スキャン\)](#)」(P.17) または「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。

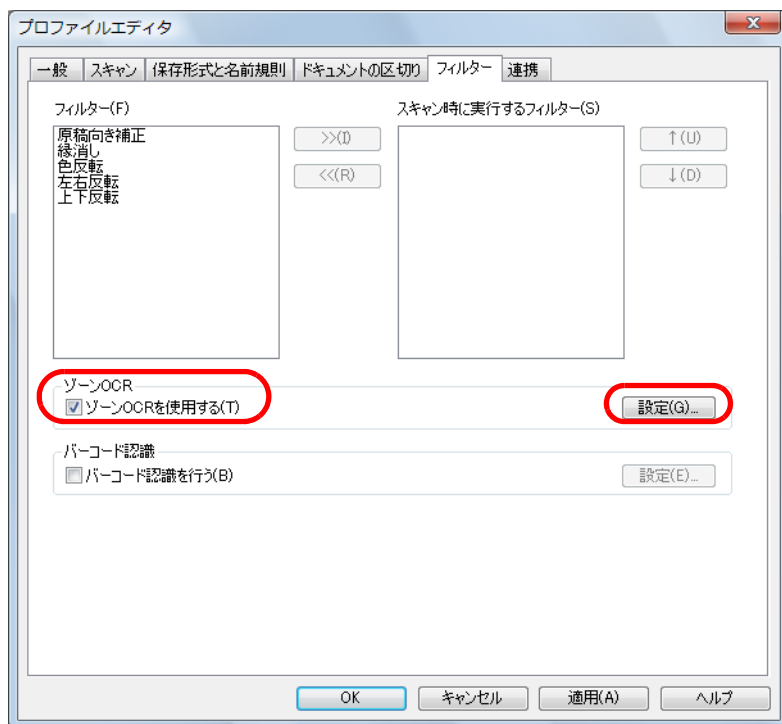


サンプルで使用できるのは、ScandAll PRO で作成した画像となります。詳細は、次のとおりです。

解像度	カラー	原稿サイズ
200dpi 以上	白黒 / 8bit グレイ / 24bit カラー	縦および横の長さ 50mm 以上 453mm 以下

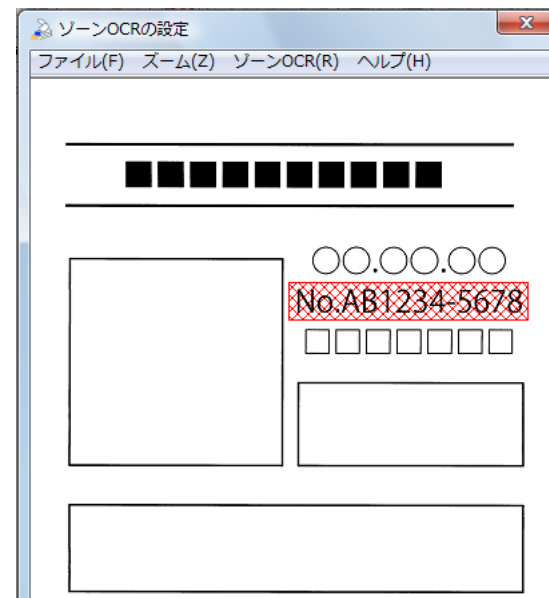
- 2 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。プロファイルを作成する方法については「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。

- 3 「フィルター」タブをクリックし、「ゾーン OCR を使用する」チェックボックスをチェックします。



- 4 [設定] ボタンをクリックします。
⇒ 「ゾーン OCR の設定」画面が表示されます。

- 5 ゾーン OCR を行う領域をドラックし選択します。



⇒ 選択した領域は赤色の網がけで表示されます。

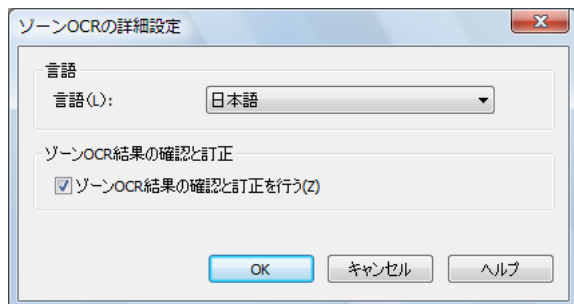
- 6 領域選択が終了したら「ファイル」メニュー→「設定の終了」をクリックし、設定内容を保存し終了します。



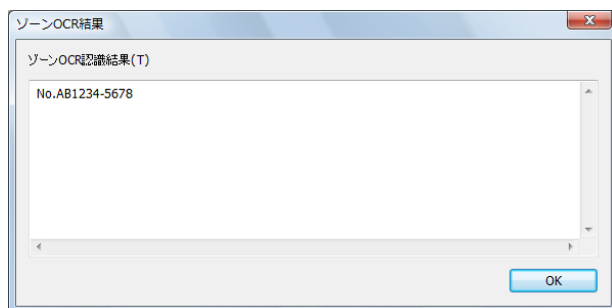
- サンプル画像の表示について
ゾーン OCR の設定画面では、次のサンプル画像が表示されます。
 - サンプル画像は、一度表示して保存されたものが表示されます。該当する画像がない場合は、メイン画面で最後に表示された画像が表示されます。メイン画面に画像が表示されていない場合は、「ファイル」メニューの「開く」でサンプル画像を選択してください。
 - 使用できるファイルは、ビットマップまたは、JPEG ファイル（Progressive JPEG を除く）です。表示するサンプル画像を変更する場合は、「ファイル」メニュー→「開く」でサンプル画像を変更します。



- ゾーン OCR の詳細設定について
「ゾーン OCR」メニュー→「詳細設定」で、ゾーン OCR の詳細設定が指定できます。設定項目の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

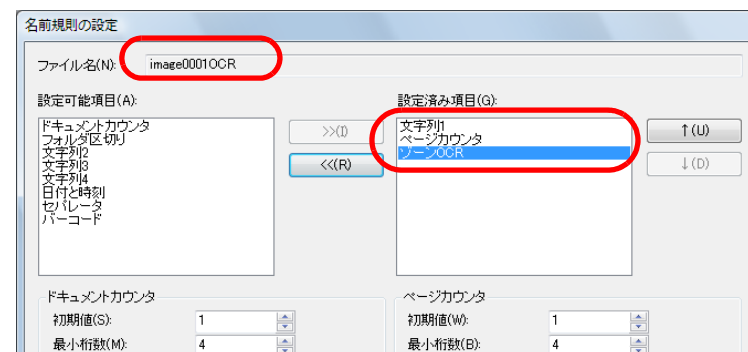


- ゾーン OCR 結果について
「ゾーン OCR」メニュー→「ゾーン OCR の実行」でサンプル画像のゾーン OCR 結果を確認できます。



- 7 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則」ボタンをクリックします。
⇒「名前規則の設定」画面が表示されます。

- 8 「文字列 1」、「ページカウンタ」、「ゾーン OCR」を「設定済み項目」に設定します。



⇒「文字列 1」「ページカウンタ」「ゾーン OCR」がファイル名に使用されます。



- ゾーン OCR で認識した文字列をファイル名に使用する場合は、次のことに注意してください。
- 認識文字列長は 32 文字までです。
 - 使用禁止文字（¥/:?* "<>|,）は、「_」（アンダーバー）に置き換えられます。
 - 改行文字は削除されます。
 - シングルページ形式のファイルを出力する場合は、「ページカウンタ」をファイル名に含めてください。ページカウンタを含めない場合、ファイル名が重複することがあります。
 - マルチページ形式のファイルを作成した場合、ファイル名には、先頭ページのゾーン OCR で認識した文字列が使用されます。

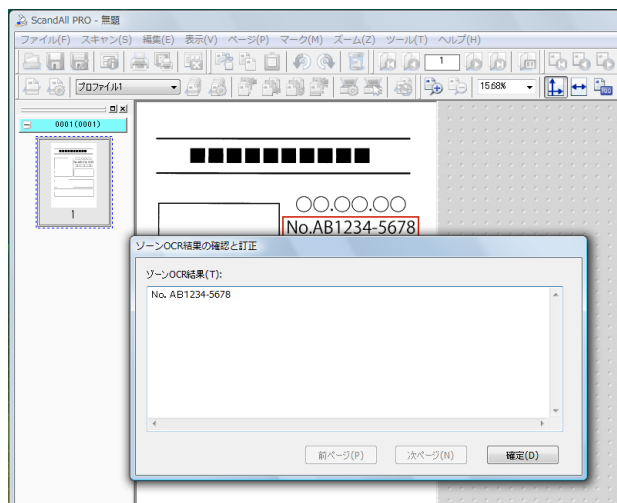
- 9 スキャナに原稿をセットします。

- 10 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
バッチスキャンを実行する方法については、「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。



ゾーン OCR 結果の確認と訂正について

「ゾーン OCR の詳細設定」で「ゾーン OCR 結果の確認と訂正を行う」チェックボックスにチェックした場合、バッチスキャン実行時に「ゾーン OCR 結果の訂正と確認」画面が表示されます。ここで、ゾーン OCR 結果の確認と訂正を行えます。



バーコードを使って結果をファイル名に設定したいとき

ScandAll PRO では、バーコード認識機能をサポートしています。本機能を使用すれば、読み込んだ原稿の特定の領域でバーコード認識が実行され、認識結果をファイルに出力できます。また、バーコードで認識した文字列を、ファイル名やフォルダー名に使用できます。ここでは、バーコードで認識した文字列をファイル名に設定する方法を説明します。



画像の解像度は、200 ～ 600dpi を推奨します。

次に手順を示します。

- 1 バーコードのサンプル画像の原稿を読み取ります。
読み取り方法は「[2.6 読み取り方法（スキャン）](#)」（P.17）または「[2.7 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.20）を参照してください。

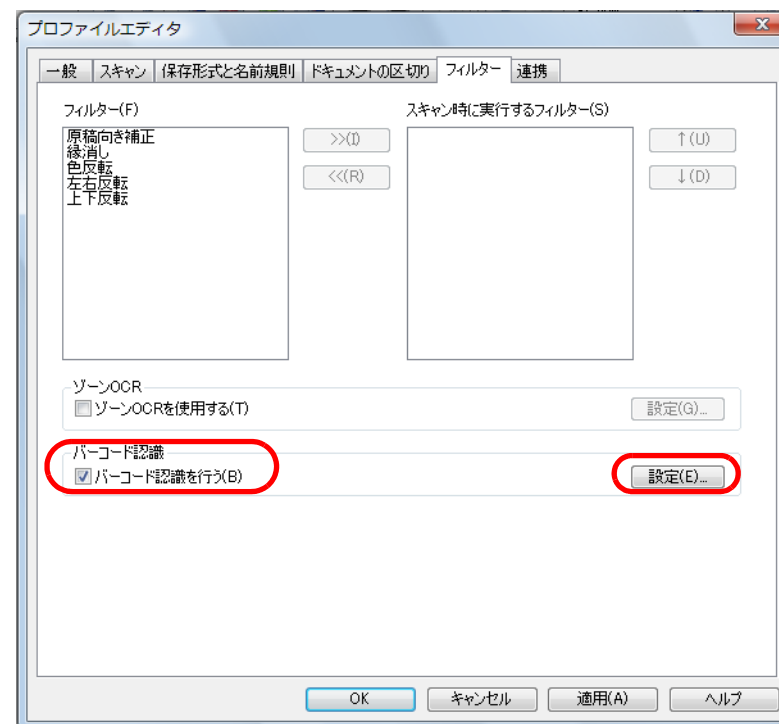


サンプルで使用できるのは、ScandAll PRO で作成した画像となります。詳細は、次のとおりです。

解像度	カラー	原稿サイズ
200dpi 以上	白黒 / 8bit グレー / 24bit カラー	縦および横の長さ 50mm 以上 453mm 以下

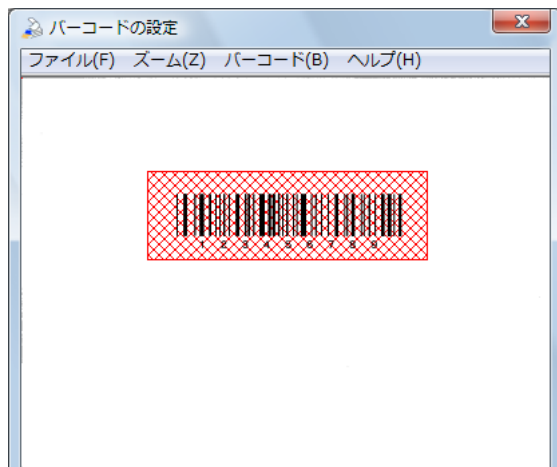
- 2 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。
プロファイルを作成する方法については「[2.7 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.20）を参照してください。

- 3 「フィルター」タブをクリックし、「バーコード認識を行う」チェックボックスをチェックします。



- 4 [設定] ボタンをクリックします。
⇒「バーコードの設定」画面が表示されます。

5 バーコード認識を行う領域をドラックし選択します。



⇒ 選択した領域は赤色の網がけで表示されます。

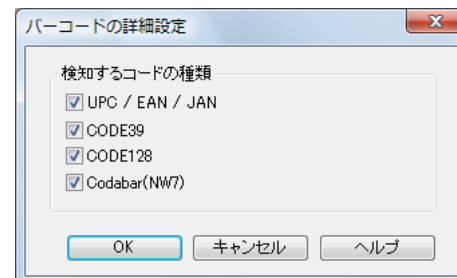
6 領域選択が終了したら「ファイル」メニュー→「設定の終了」をクリックし、設定内容を保存し終了します。



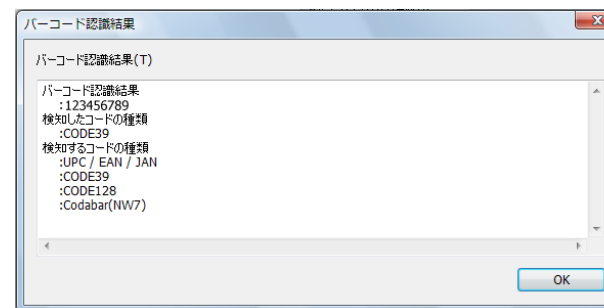
- サンプル画像の表示について
バーコードの設定画面では、次のサンプル画像が表示されます。
 - サンプル画像は、一度表示して保存されたものが表示されます。該当する画像がない場合は、メイン画面で最後に表示された画像が表示されます。メイン画面に画像が表示されていない場合は、「ファイル」メニューの「開く」でサンプル画像を選択してください。
 - 使用できるファイルは、ビットマップまたは、JPEG ファイル（Progressive JPEG を除く）です。表示するサンプル画像を変更する場合は、「ファイル」メニュー→「開く」でサンプル画像を変更します。



- バーコードの詳細設定について
「バーコード」メニュー→「詳細設定」で、バーコードの詳細設定が指定できます。設定項目の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。



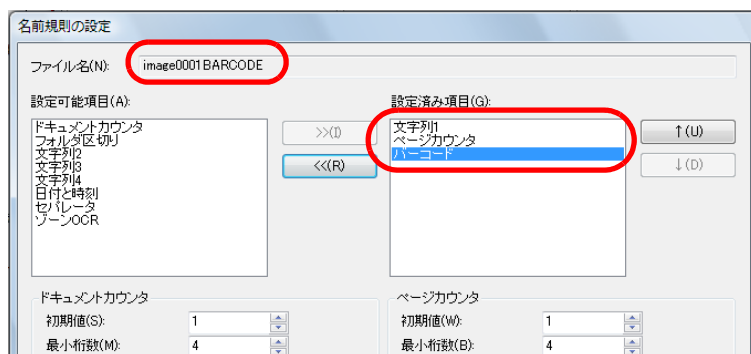
- バーコード認識結果について
「バーコード」メニュー→「バーコード認識の実行」でサンプル画像のバーコード認識結果を確認できます。



7 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則」ボタンをクリックします。

⇒ 「名前規則の設定」画面が表示されます。

8 「文字列 1」、「ページカウンタ」、「バーコード」を「設定済み項目」に設定します。



⇒ 「文字列 1」「ページカウンタ」「バーコード」がファイル名に使用されます。



バーコードで認識した文字列をファイル名に使用する場合は、次のことに注意してください。

- 認識文字列長は 32 文字までです。
- 使用禁止文字（¥/:?* "<>|,）、先頭・末尾の空白は、「_」（アンダーバー）に置き換えられます。
- 改行文字は削除されます。
- シングルページ形式のファイルを出力する場合は、「ページカウンタ」をファイル名に含めてください。ページカウンタを含めない場合、ファイル名が重複することがあります。
- マルチページ形式のファイルを作成した場合、ファイル名には、先頭ページのバーコードで認識した文字列が使用されます。

9 スキャナに原稿をセットします。

10 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。

バッチスキャンを実行する方法については、「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。

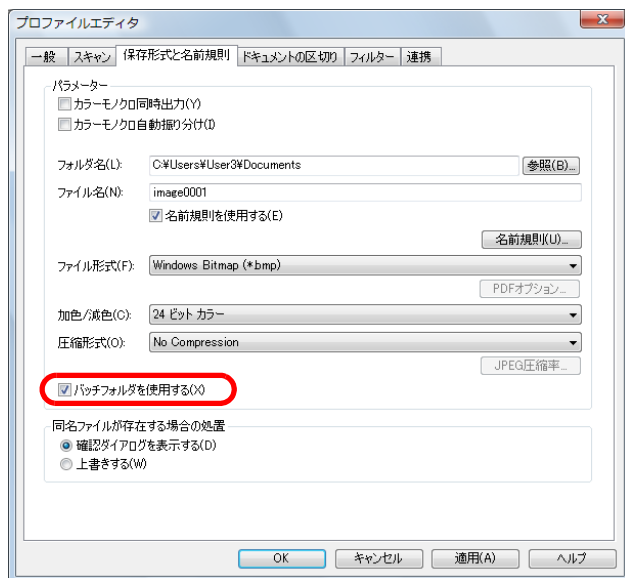
バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき

同じバッチプロファイルを連続して実行した場合、ファイル名が同一となり、以前のバッチスキャンの出力ファイルを上書きしてしまうことがあります。

ScandAll PRO では、バッチスキャンを実行するごとに、画像ファイルを格納するフォルダーを作成し、誤ってファイルを上書きしてしまわないよう設定できます。

次に手順を示します。

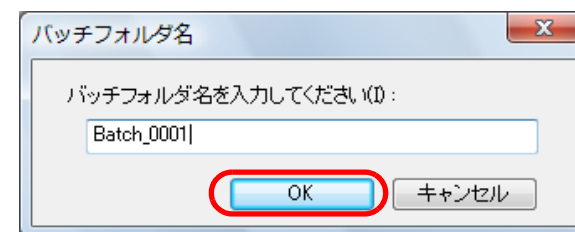
- 1 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。プロファイルを作成する方法については「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。
- 2 「保存形式と名前規則」タブをクリックし、「バッチフォルダを使用する」チェックボックスをチェックします。



- 3 スキャナに原稿をセットします。
- 4 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
⇒ バッチスキャンを実行すると「バッチフォルダ名」画面が表示されます。

バッチスキャンを実行する方法については、「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。

- 5 バッチフォルダ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



⇒ スキャン処理が実行され、入力したバッチフォルダ名で作成されたフォルダーに、ファイルが格納されます。

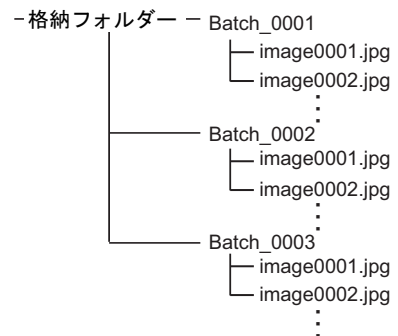


バッチフォルダ名の末尾に8桁以内の数字が付加されている場合は、前回指定された数字に1を加え表示します。ただし、1を加えることで桁数が増える場合は、1に戻します。
また、バッチフォルダ名の末尾に8桁を超える数字が付加されている場合は、数値は変動しません。
例：

指定したバッチフォルダ名	次のバッチフォルダ名
Batch_0009	Batch_0010
Batch_9999	Batch_0001
Batch_000000001	Batch_000000001

格納例:

バッチ単位のフォルダーを
使用した場合



TOP

目次

索引

はじめに

ScandAll PRO
について

ScandAll PRO
の使い方

バッチスキャンを実行して Microsoft SharePoint Server に格納したいとき

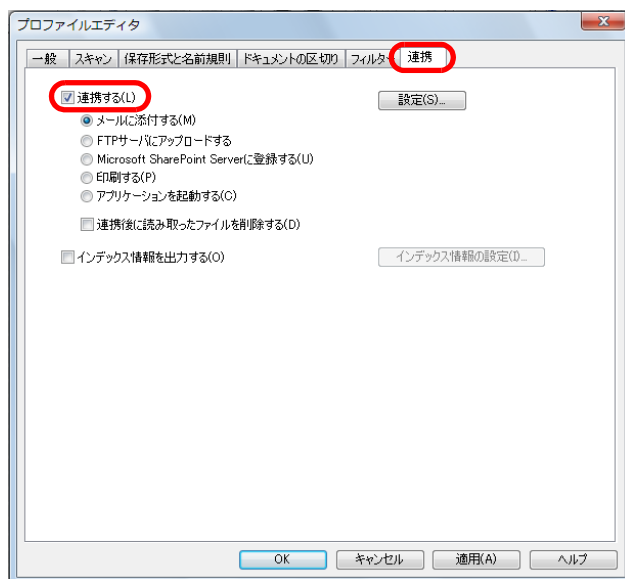
ScandAll PRO では、バッチスキャンを実行して、画像ファイルを Microsoft SharePoint Server に格納できます。



Microsoft SharePoint Server が動作しているサーバに ScandAll PRO のモジュールの一部をインストールする必要があります。Setup DVD-ROM の [ScandAll] フォルダ内にある "ScandAllPROsrv.exe" を、サーバ上で実行してください。

次に手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。
プロファイルを作成する方法については「[2.7 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.20）を参照してください。
- 2 「連携」タブをクリックし、「連携する」チェックボックスをチェックします。



- 3 「Microsoft SharePoint Server に登録する」をクリックし、[設定] ボタンをクリックします。
⇒ 「SharePoint Server 転送情報の設定」画面が表示されます。
- 4 読み取った画像を Microsoft SharePoint Server に格納する際の設定を行います。
- 5 [OK] ボタンをクリックします。
⇒ 「プロファイルエディタ」画面に戻ります。
- 6 スキャナに原稿をセットします。
- 7 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
⇒ バッチスキャンを実行すると Microsoft SharePoint Server に画像ファイルが格納されます。



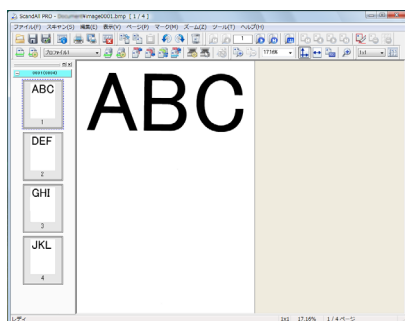
詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

中断したバッチスキャンを再開したいとき

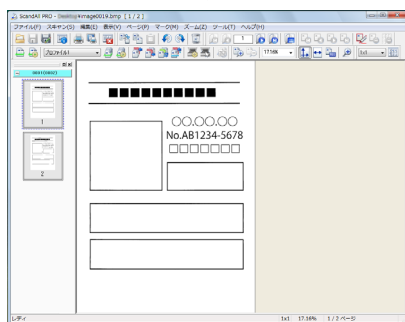
ScandAll PRO では、「バッチスキャン」を行った場合、バッチスキャンの作業状態が自動で一時保存されます。

バッチスキャンを再開したい場合は、保存されたバッチスキャンの作業状態を「スキャン」メニュー→「バッチスキャンの復元」をクリックすると復元します。復元後、スキャン作業を再開できます。

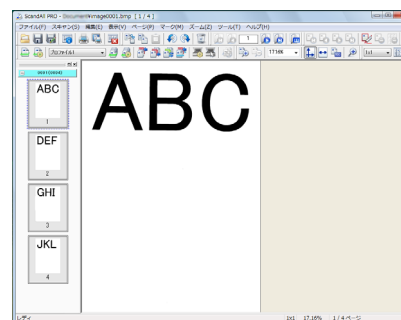
これにより、例えば中断したバッチスキャン作業を翌日に続けて行えます。また、急ぎのスキャン作業がある場合でも、現在の作業状態が保存されているので、割り込みでスキャンを実行したあと、元の作業を再開できます。



バッチスキャン作業
(自動保存)



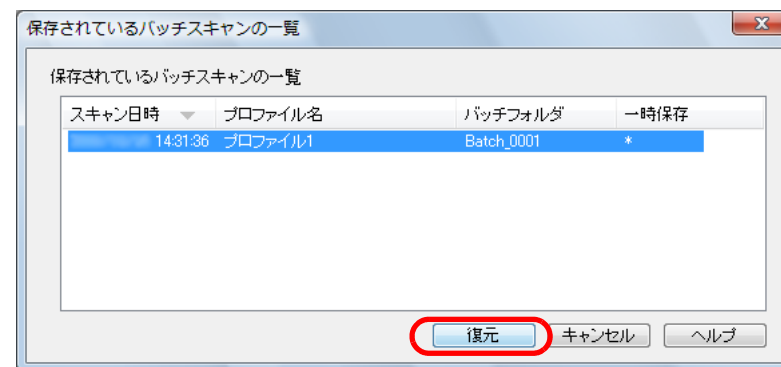
別のスキャン作業を実行



保存された作業状態を復元し
作業再開

次に保存したバッチスキャンを復元する手順を示します。

- 1 「スキャン」メニュー→「バッチスキャンの復元」をクリックします。
⇒「保存されているバッチスキャンの一覧」画面が表示されます。
- 2 復元したいバッチスキャンをクリックし、[復元] ボタンをクリックします。



⇒ メイン画面にバッチスキャンの内容が復元され、追加スキャンや画像の編集などの作業を再開できます。



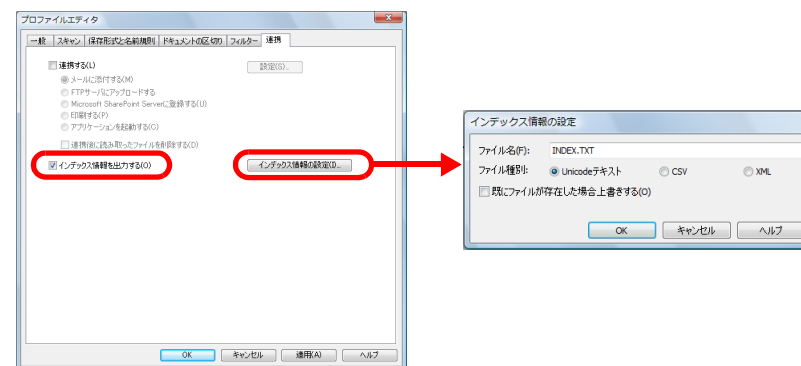
詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

インデックス情報を出しアプリケーションと連携したいとき

ScandAll PRO では、ゾーン OCR 結果およびバーコード認識結果をインデックス情報ファイルに出力できます。また、アプリケーションを起動し、出力したインデックス情報ファイル名を、パラメーターとしてアプリケーションに渡せます。本機能によって、例えば、インデックス情報が付加された画像をサーバに登録するためのバッチプロファイルが簡単に作成できます。

次に手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。
プロファイルを作成する方法については「[2.7 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.20）を参照してください。
- 2 「プロファイルエディタ」画面でバーコードの設定、またはゾーン OCR の設定を行います。
バーコードの設定方法は「[バーコードを使って原稿を分割したいとき](#)」（P.30）、ゾーン OCR の設定は「[ゾーン OCR を使って結果をファイル名に設定したいとき](#)」（P.37）を参照してください。
- 3 「プロファイルエディタ」画面の「連携」タブの「インデックス情報を出力する」チェックボックスをチェックします。出力するファイル名やファイル種別の設定は、「インデックス情報の設定」ボタンをクリックし、「インデックス情報の設定」画面で行います。



- インデックス情報ファイルは「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「フォルダ名」で指定したフォルダに格納されます。また、「バッチフォルダを使用する」チェックボックスがチェックされている場合は、バッチフォルダにインデックス情報ファイルが出力されます。
- インデックス情報ファイルは次の形式です。ファイル形式の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。
 - Unicode テキスト形式

```
YYYY/MM/DD hh:mm:ss [TAB] ファイル名
[TAB] ページ番号 [TAB] "ゾーン OCR 認識結果"
[TAB] "バーコード認識結果"
```

- CSV 形式

```
"YYYY/MM/DD hh:mm:ss","ファイル名","ページ番号","ゾーン OCR 認識結果","バーコード認識結果"
```



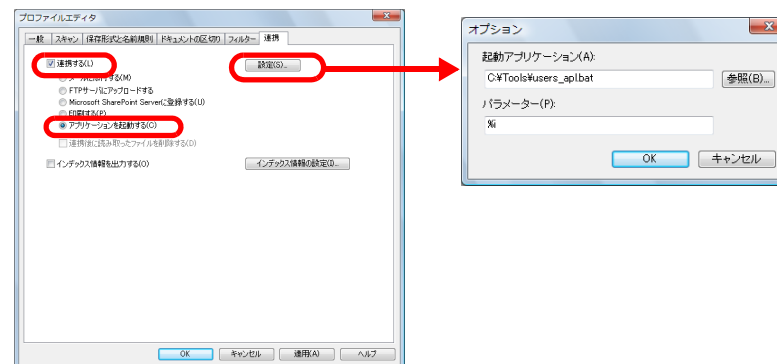

- XML 形式

```

<?xml version = "1.0" encoding = "utf-8"?>
<root>
<page>
<item name = "Date&time" value = " 日付と時刻 "
/>
<item name = "Full Path" value = " ファイル名 (
フルパス )" />
<item name = "Page Number in Document" value
= " ドキュメント内ページ番号 " />
<item name = "Zone OCR" value = " ゾーン OCR
認識結果 " />
<item name = "Barcode" value = " バーコード認
識結果 " />
</page>
<page>
<item name = "Date&time" value = " 日付と時刻 "
/>
<item name = "Full Path" value = " ファイル名 (
フルパス )" />
<item name = "Page Number in Document" value
= " ドキュメント内ページ番号 " />
<item name = "Zone OCR" value = " ゾーン OCR
認識結果 " />
<item name = "Barcode" value = " バーコード認
識結果 " />
</page>
.
.
</root>

```

- 4 「プロファイルエディタ」画面の「連携」タブの「連携する」チェックボックスをチェックし、「アプリケーションを起動する」をクリックします。次に、[設定] ボタンをクリックし、「オプション」画面で、「起動アプリケーション」に起動するアプリケーションの実行ファイルを指定し、「パラメーター」に %i を指定します。



- 5 スキャナに原稿をセットします。
- 6 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
⇒ 原稿が読み取られたあと、アプリケーションが起動され、ScandAll PRO が出力したインデックス情報が、パラメーターとして渡されます。

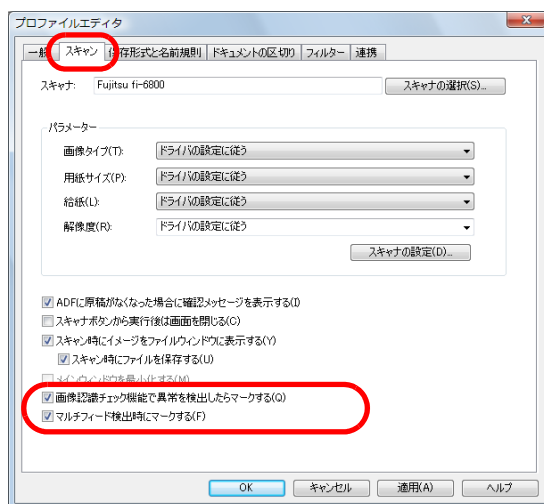
バッチスキャンを実行する方法については、「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。

読み取った原稿の異常を検出したいとき (fi-6800)

読み取った原稿で異常を検出した場合、自動的にサムネイル画面の背景色を変更し、該当する画像をユーザーにわかりやすく通知できます。

次に、異常を検出して通知するための手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいバッチプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。
プロファイルを作成する方法については「[2.7 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.20) を参照してください。
- 2 「スキャン」タブの「画像認識チェック機能で異常を検出したらマークする」および「マルチフィード検出時にマークする」のチェックボックスをチェックします。



- 「画像認識チェック機能で異常を検出したらマークする」チェックボックスをチェックした場合
読み取った原稿に折れや破れがないかがチェックされます。異常が検出された場合、サムネイル画面の背景色が黄色のマークで通知されます。
- 「マルチフィード検出時にマークする」チェックボックスをチェックした場合
一度に 2 枚以上の原稿が重なって給紙されていないか、原稿の長さによる違いがないかがチェックされます。スキャン処理中にマルチフィードが検出された場合でも、スキャン処理を停止せずに処理が継続されます。すべてのスキャン処理終了後、マルチフィードが検出されたページのサムネイル画面の背景色が、赤色のマークで通知されます。
- 3 「スキャン」タブの [スキャナの設定] ボタンをクリックし、読み取り条件の設定を行います。
- 「画像認識チェック機能で異常を検出したらマークする」チェックボックスをチェックした場合

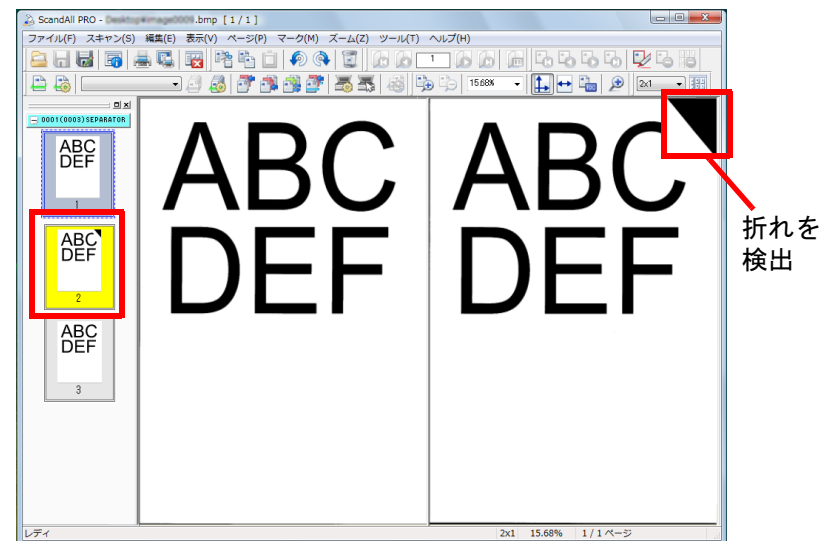
スキャナドライバ	設定内容
TWAIN ドライバ	[オプション] ボタンの「回転」タブの「自動傾き / サイズ検出」で「自動用紙サイズ検出」または「黒背景」を設定します。
ISIS ドライバ	次のどちらかを設定してください。 ● 「メイン」タブの「クロッピング」を「自動設定」、「傾き補正」または「長尺帳票」に設定 ● 「用紙処理」タブの「背景」を「黒」に設定

- 「マルチフィード検出時にマークする」チェックボックスを
チェックした場合

スキャナドライバ	設定内容
TWAIN ドライバ	[オプション] ボタンの「動作」タブの「マルチフィード検出」で「重なりを検出(超音波)」、「長さの違いを検出」または「重なりと長さの違いを検出」を設定します。
ISIS ドライバ	「マルチフィード検出」タブの「マルチフィード検出」で「重なりを検出」または「長さの違いを検出」を設定します。

- 4 読み取り条件の設定が終わったら、TWAIN ドライバの場合は、[了解] ボタンをクリックします。
ISIS ドライバの場合は、[OK] ボタンをクリックします。
⇒ 「プロファイルエディタ」画面に戻ります。
- 5 「プロファイルエディタ」画面の [OK] ボタンをクリックし、プロファイルを登録します。
- 6 スキャナに原稿をセットします。

- 7 作成したバッチプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
⇒ 読み取った原稿に異常がある場合、該当するサムネイル画面の背景色が変わります。



異常が検出されたページは、「ページ」メニュー → 「差し替え」 → 「スキャン」で差し替えできます。



画像端部の形状を元に異常を検出しているため、原稿の形状や色味によっては、誤検出したり、検出できなかったりする場合があります。
本機能を使用する場合でも、読み取り後の画像を確認してください。

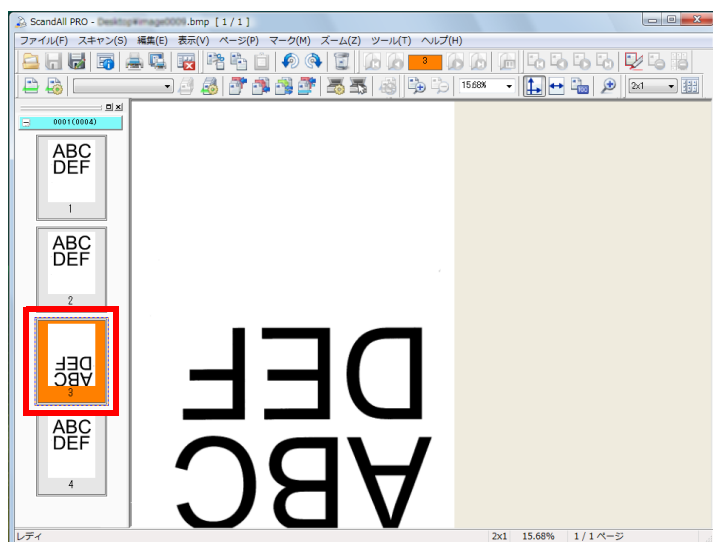
2.9 読み取り後の便利な機能

サムネイル画面にマークを付加する

複数枚の原稿を読み取ったあとに、必要な画像を区別する場合などに便利な機能です。

次に手順を示します。

- 1 スキャナに原稿をセットし、読み取りを実行します。
- 2 必要な画像のサムネイル画面を選択し、「マーク」メニュー → 「マークを付加」を選択します。
⇒ 選択したサムネイル画面の背景色が橙色に変わります。



サムネイル画面を選択した状態で右クリックし、「選択されたページにマークを付加」を選択しても、背景色が橙色のマークを付加できます。

- 3 必要な画像にマークを付加したあと、「マーク」メニューから次の項目を選択して、操作します。

項目	説明
前マーク	選択しているサムネイル画面の前にあるマークが付加されたページを表示します。
次マーク	選択しているサムネイル画面の次にあるマークが付加されたページを表示します。
先頭マーク	マークが付加されている先頭のページを表示します。
最終マーク	マークが付加されている最終のページを表示します。
マークを解除	選択しているサムネイル画面のマークを解除します。
全てのマークを解除	マークが付加されている、すべてのサムネイル画面のマークを解除します。



サムネイル画面を選択した状態で右クリックし、「選択されたページからマークを解除」を選択しても、付加されているマークを解除できます。

読み取った画像を Microsoft SharePoint Server に格納する

読み取った画像を Microsoft SharePoint Server に格納できません。



Scan to Microsoft SharePoint がインストールされている必要があります。
インストールされていない場合は、「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 → 「Fujitsu ScandAll PRO」 → 「お読みください」を参照してインストールしてください。

次に手順を示します。

- 1 スキャナに原稿をセットし、読み取りを実行します。
- 2 「ファイル」メニュー → 「送る」 → 「Microsoft SharePoint」を選択します。
⇒ 「Scan to Microsoft SharePoint」画面が表示されます。
- 3 読み取った画像を Microsoft SharePoint Server に格納します。
詳細については、Scan to Microsoft SharePoint のユーザーズガイドを参照してください。
Scan to Microsoft SharePoint のユーザーズガイドは、「スタート」メニュー → 「KnowledgeLake」 → 「Scan to Microsoft SharePoint のユーザーズガイド」を順に選択すると表示されます。

索引

M		
	Microsoft SharePoint Server.....	46, 53
P		
	PDF	26
S		
	ScandAll PRO とは	9
	ScandAll PRO の起動	12
	ScandAll PRO の使い方	11
	Scan ボタン	34
	Send to ボタン	34
V		
	VRS	9
い		
	いろいろな読み取り方法	23
	インデックス情報	48
か		
	格納フォルダー	44
け		
	原稿の分割 (バーコード)	30
	原稿の分割 (パッチコード)	28
す		
	スキャナドライバの選択	13
	スキャナの選択	14
と		
	特長	10
	ドライバ (ISIS)	13
	ドライバ (TWAIN)	13
は		
	はじめに	3
	バッチスキャン	44
	バッチスキャンの再開	47
	バッチスキャンの復元	47
ふ		
	ファイル名の設定 (バーコード)	41
	ファイル名の設定 (ゾーン OCR)	37
	プロファイルの作成 / 編集	20
ほ		
	本書の使い方	2
	本書をお読みになる前に	4

よ

読み取り方一覧	23
読み取り後の便利な機能	52
読み取り条件の設定	15
読み取り方法（スキャン）	16, 17
読み取り方法（バッチスキャン）	16, 20

TOP

目次

索引

はじめに

ScandAll PRO
について

ScandAll PRO
の使い方

ScandAll PRO の使い方

P2WW-2410-04Z0

発行日 2010 年 7 月

発行責任 株式会社 PFU

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社は一切その責を負いません。
- 無断転載を禁じます。